

大和名所圖會

漆下郡 平群郡
廣瀨郡 葛下郡
忍海郡
三

ル 4
6321
3



佳定



大和名所圖會卷之三



西大寺 <small>豊心丹</small>	秋篠邑	元明天皇陵	安楽天皇陵	新田部親王祠	唐招提寺 <small>金堂 講堂 文殊堂</small>	藥師寺 <small>金堂 講堂 文殊堂</small>	西系 <small>西系</small>	藻園宮	大井 <small>あまの</small>
葛下郡	忍海郡	平群郡	廣瀨郡	超昇寺	外山里	弘法井	菅原伏見	菅原社	菅原寺
神功皇后陵	成務天皇陵	菅原社	菅原寺	興福尼院	植柳八幡宮	美濃山陵	筒井城址	筒井城址	東明寺
秋篠寺	額德天皇陵	赤膚山	伏見岡	西系八幡宮	羅城門	大塚	東明寺	東明寺	



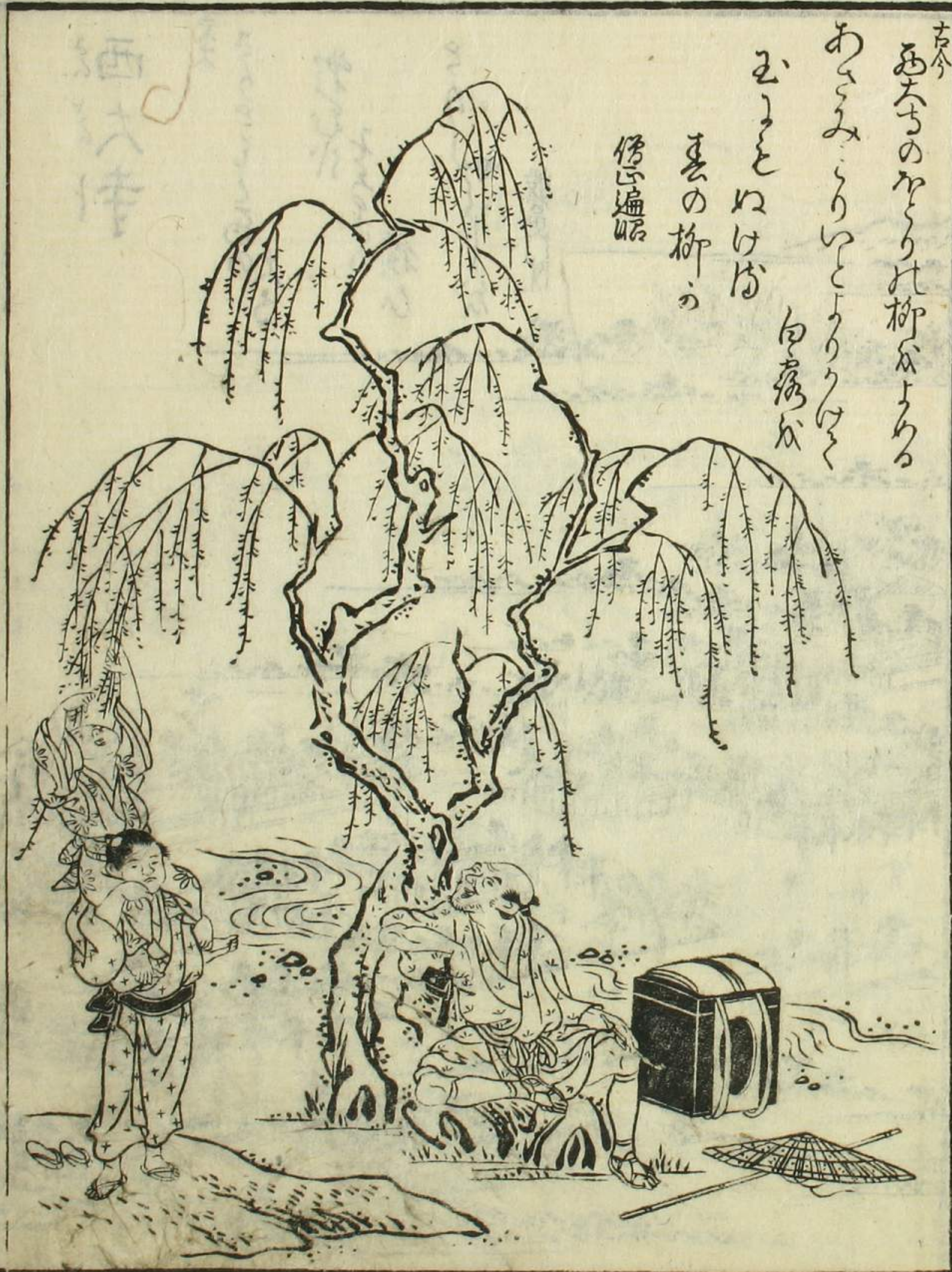
<2000-322>

金剛寺 又夫里
 王龍寺
 登彌社
 星來泉
 私部越
 押熊祠
 阿弥陀井
 小倉岩
 吟川光寺
 橋本社
 茶師井
 法起寺
 三井
 西松尾寺
 長久寺
 寶山寺
 巖船祠
 清瀧越
 秋篠川
 福貴寺
 教弘寺
 生駒谷 水鏡石
 安明寺
 椿井
 駒墳
 調子丸家比
 赤檮墓
 靈仙寺
 龍王岩
 岩船越
 御櫛社
 思取山 鶴林寺
 往馬社
 巖上社
 金勝寺
 千塚
 法輪寺
 北岡墓 大満比
 勝向田池
 迹見池
 北河越
 八幡祠
 山口社
 竹林寺
 棕嶺越
 平群社
 雙墓
 瓦塚
 舟塚
 斑鳩里

因可乃沈
 西圓堂
 律學院
 御相殿
 正覺寺
 脩南院
 藏王堂
 菅田池
 苑部墓
 毛無岡
 神南備
 信貴山
 龍田山
 二室山
 立聖
 廣瀬宮
 富小川
 手水屋
 東院
 三寶院
 觀喜院
 金光寺
 額安寺
 龍田新宮
 二田屋
 法小竹原
 米尾
 龍田川
 二室山
 百濟宮 百濟大寺
 仲為井
 法隆寺 金堂
 聖靈院
 舍利堂
 北室律院
 圓成院
 常樂寺
 竹原井
 龜瀨山
 占手山
 神岳社
 信貴古城
 大味川
 小倉岩
 列丸丸沈
 大福寺
 講堂
 沈水香圖
 繪殿
 中宮寺
 如法徑堂
 芦塘宮
 清水墓
 磐瀨社
 恒津田沈
 猪上社
 厨屋址
 紅葉川
 龍田社
 櫻嶺
 百濟川

長林寺
 澤田川
 二上岡墓
 斤岡社
 放光廢寺
 斤岡野
 顯宗子皇陵
 龍峯寺
 萬歲山
 威奈墓
 奥院
 正行寺
 長尾社
 櫛王比賣社
 廣瀨社
 葦田系日池
 久度社口土寺
 氷室址
 朝系
 大幡社
 福應寺
 二上山墓
 二上山
 深野寺櫻井
 多久蟲王社
 金村社
 的場橋
 牧野墓
 日見橋
 孝靈大皇陵
 二上廢寺
 小松社
 志邨墓社
 大那雷社
 葛本上社二座
 當麻寺
 高雄寺
 深孔宮
 宇佐社
 廣瀨川
 成相墓
 船戶渡口
 達磨寺
 斤岡山
 武烈大皇陵
 大坂山社
 當麻山社
 腰折田新曼陀羅講堂
 横佩墓紫雲庵
 調田社
 影現寺

笛吹山
 鳥志社
 笛吹沈
 栗栖小孫
 火雷社
 清水
 葛城川
 角刺宮址
 朱櫻
 笛吹社
 遊園



古今
あまのやうに柳をよめる

あまのやうにいとよりのひそ

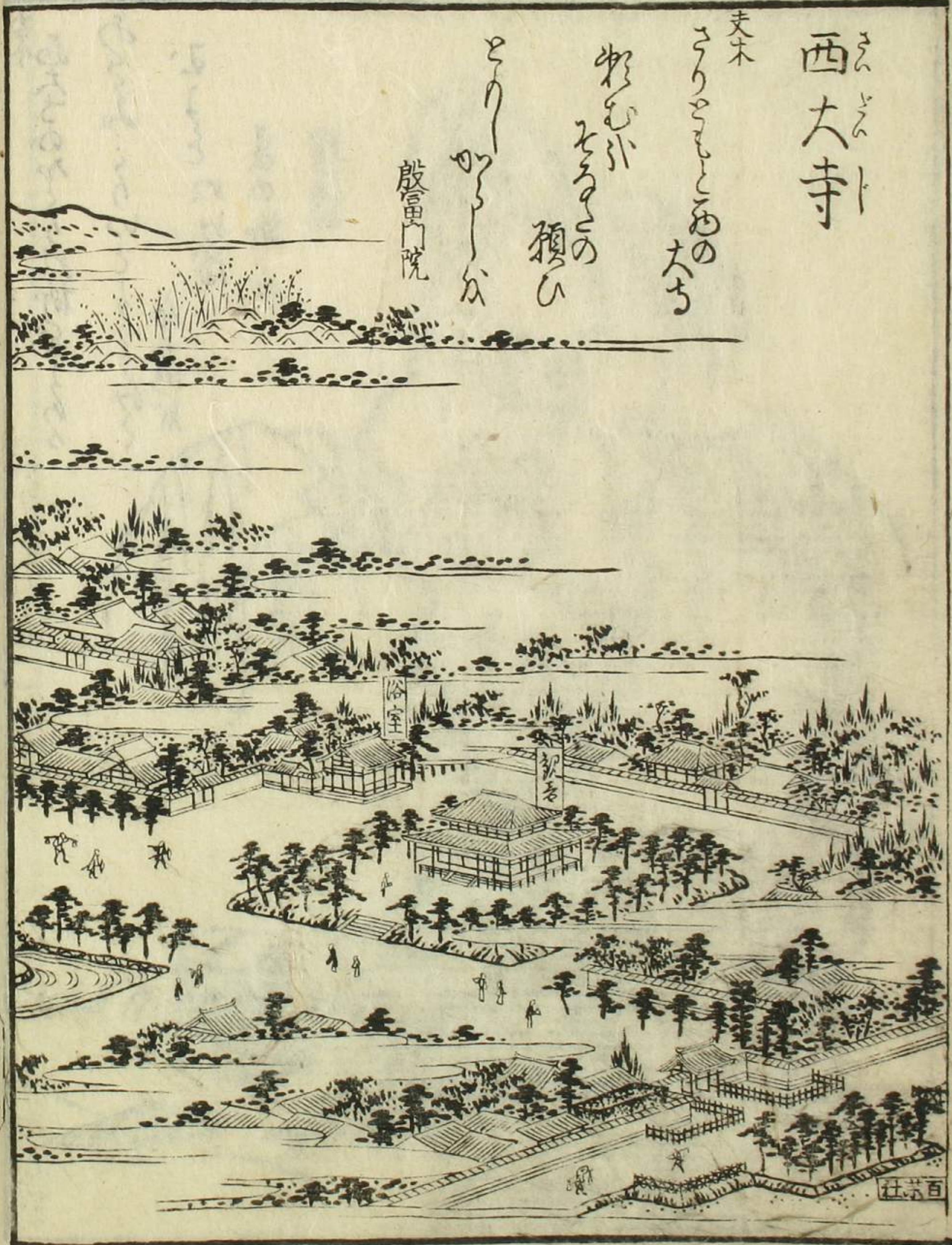
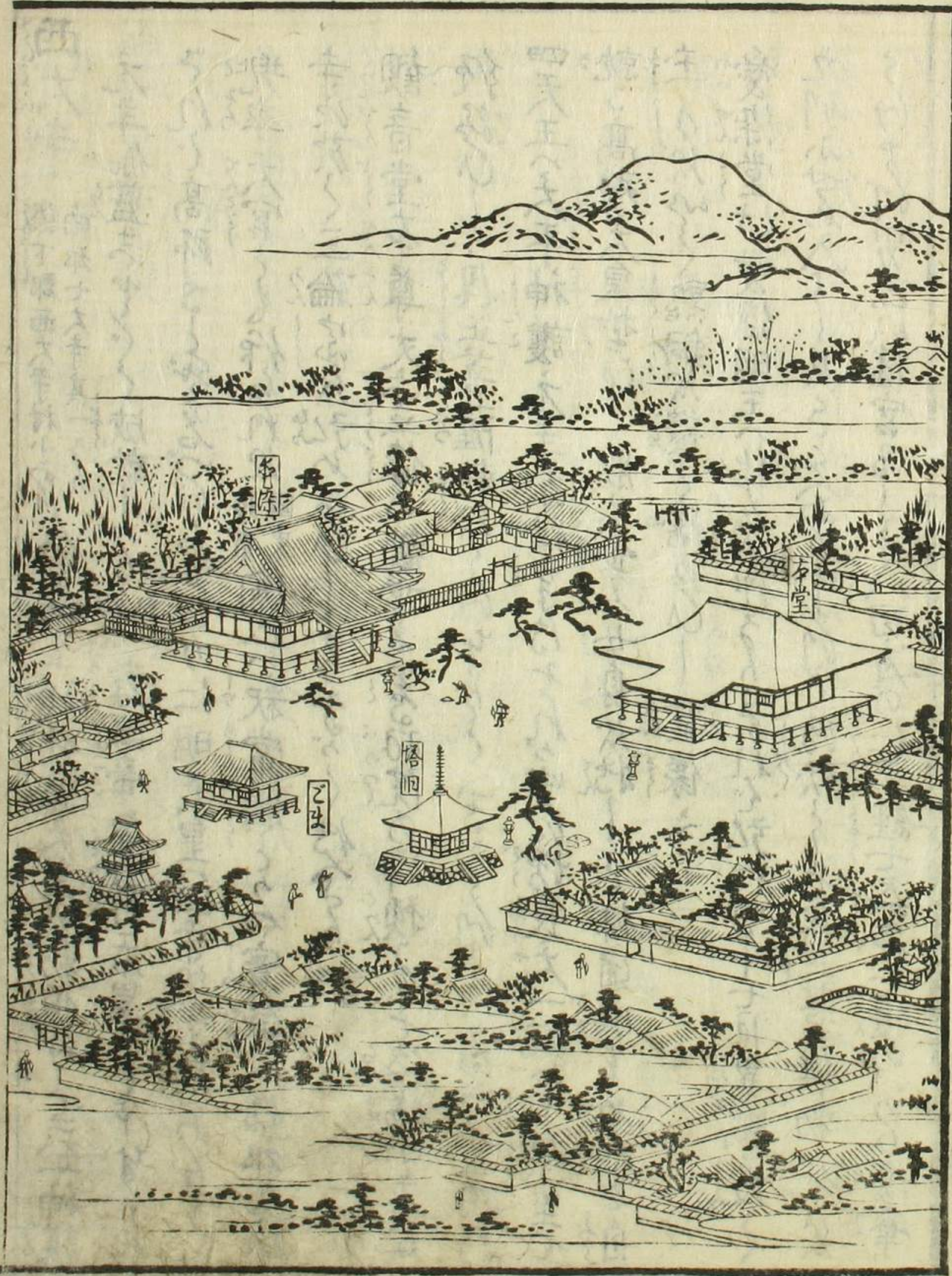
玉ふとぬけは

まの柳の

傳い編み

西六侍

三月三日



西大寺

夫木

よりともこのの
大ち

物もけ

そのこの

預い

そのの
かきか

殷富門院

西大寺

添下郡西大寺村あり

天皇四十六代孝謙天皇の勅預めして三年神護

元年伽藍をせめて成就せり拾芥孝謙帝は高野天皇と云ふなり

これ高野と我名づけらるる仁明天皇は寺に崇敬あり

塊卒天宮とも作られた類聚南山の釈常騰と云ふ實敏大傍都とい

寺に於て三輪宗を弘めり類聚よりふかく侍り

觀音堂本尊丈六立像の觀世音菩薩の御願して洛陽小千原

經路ひらき眞正菩薩勅をけり類聚けりしと云ふ堂内乃

四天王の太平神護元年小徳を侍りける中に増長天一軀七夜小至て

就高野天皇誓ひて朕來世を女身成す類聚佛道成しめんと思

玉の瓜を熟銅に攪り練りて靈像と

愛染堂は愛染明王の化人の化りこれを弘仁四年七月異賊發し

九別ふせり入り其と云ふふの浮休して眞正菩薩勅命令を

らけり男山八幡宮あり八幡の仁王經七晝夜七壇のいのり護摩

のくわりの空小まら鈴の音と地と云ふか修法の舞身の毛髪をせりけり

満る夜滴矢をかくて飛り遂に左宰相府持多あり異賊退治

せりかの夜より明王持おのちをかく永く忍びりは記録今男の

奥院眞正菩薩の塚あり折西大寺貞観三年の回縁より二百七十八年終り

二年眞正菩薩と謚しと云ふ其外后妃を眞正菩薩眞正菩薩を尊みと云ふ

正應二年八月廿五日乙未大ちして

豊心丹坊中のまをあり道宣律師をかくり豊心丹の方を侍り

紹昇寺紹昇寺村平城天皇才二皇子眞如法親王の御遺るに清海

上人上人の若く建管あり念佛堂も大正の井戸若狭やが兵火よ

かしく焼亡せり迎年修造あり

神功皇后山陵倉山神入所計あり主人神陵と称し大宮ともいへ

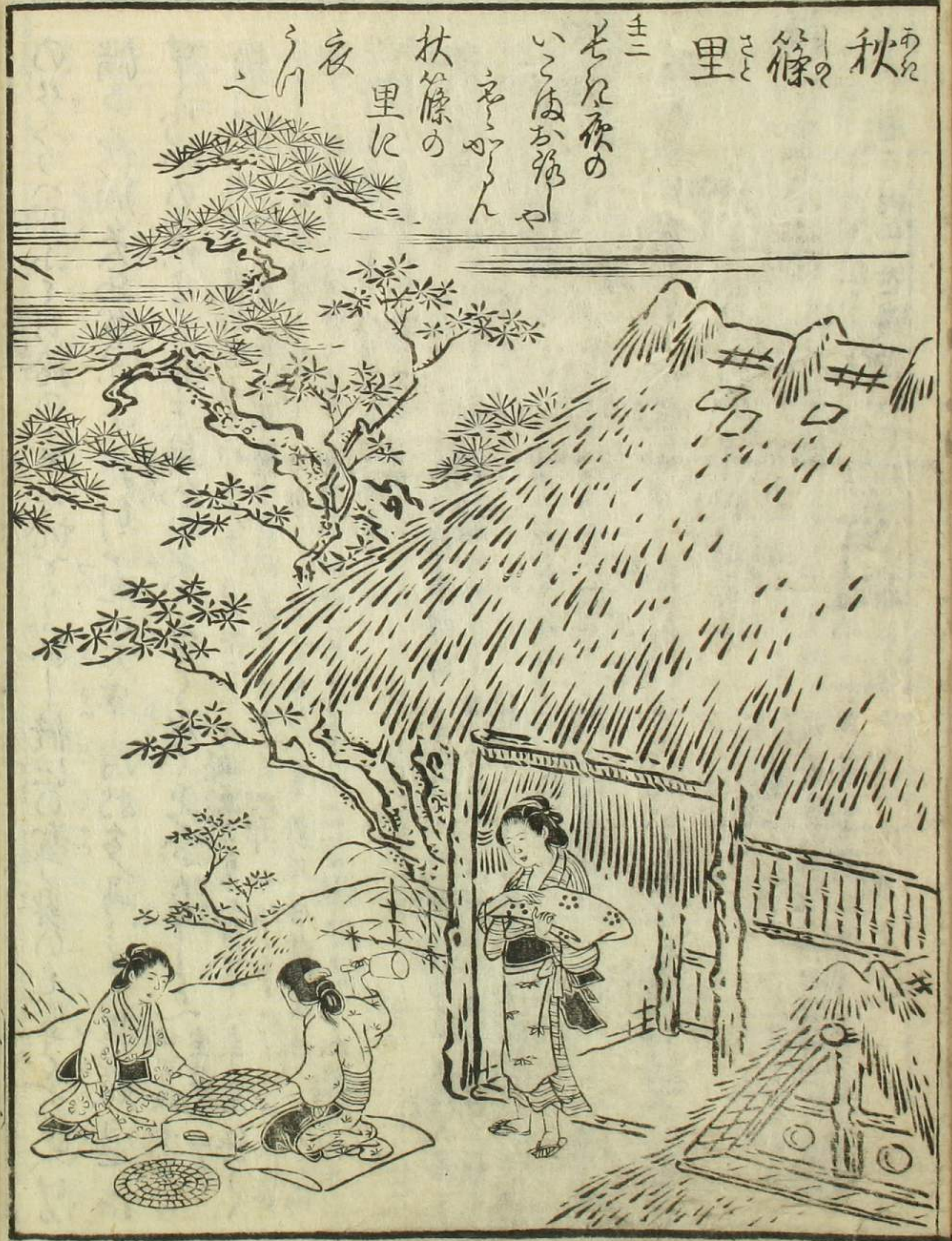
根廻り十六回墮あり倉山の方より道あり日本紀曰長足姫尊といふ稚櫻宮

小て山崩れ付ふ百歳狹城盾列陵小葬と皇太后と追尊と



秋篠の
 村に
 居る人々

凡兆



秋篠の里

長夜の
 いそぎ
 秋篠の
 里に
 居る人々

秋篠寺

秋篠村

大和志社記曰本尊茶師如來(ひ)基の化十二神將

是日の化光仁帝の神建立物系伽藍造立の功いささか速きをみよし
帝崩神ありしゆ桓武帝退く造宮ありく供奉承造を修ひける
之南(ひ)宮珠傍正(ひ)僧正唯識と多(ひ)心の撓(ひ)こころ因明論(ひ)ひる

てを眼小倦(ひ)あやあ(ひ)延曆十六年(ひ)月(ひ)入寂(ひ)の(ひ)年七十

香水寺内小あり上小祠(ひ)ま(ひ)ひり城國小栗栢の常曉阿闍梨と(ひ)

あふ(ひ)り花林(ひ)元照(ひ)大元師の靈像秘方(ひ)けつ(ひ)降朝

の後小栗栢の法林寺(ひ)け(ひ)法(ひ)り(ひ)が秋之一夜この

やく(ひ)如來(ひ)こ(ひ)り曉の(ひ)加(ひ)造(ひ)ひ(ひ)に井(ひ)の(ひ)ら(ひ)小(ひ)大(ひ)元(ひ)明(ひ)王

の(ひ)像(ひ)ら(ひ)く(ひ)常(ひ)曉(ひ)の(ひ)紋(ひ)ら(ひ)の(ひ)ま(ひ)を(ひ)わ(ひ)それ(ひ)り後(ひ)七日(ひ)乃

神修法(ひ)常(ひ)曉(ひ)阿(ひ)闍(ひ)梨(ひ)と(ひ)る(ひ)ひ(ひ)あ(ひ)と(ひ)あ(ひ)ん香水記それ(ひ)神修法(ひ)

監(ひ)觸(ひ)美(ひ)和(ひ)元(ひ)年(ひ)弘(ひ)法(ひ)大(ひ)師(ひ)宮(ひ)中(ひ)小(ひ)真(ひ)言(ひ)院(ひ)建(ひ)く(ひ)勅(ひ)修(ひ)小(ひ)は(ひ)せ

毎(ひ)正月(ひ)一(ひ)七日(ひ)乃(ひ)く(ひ)と(ひ)か(ひ)つ(ひ)鎮(ひ)護(ひ)國(ひ)家(ひ)五(ひ)穀(ひ)豐(ひ)饒(ひ)の(ひ)と(ひ)と(ひ)

す(ひ)後(ひ)七日(ひ)の(ひ)神修法(ひ)是(ひ)其(ひ)後(ひ)大(ひ)元(ひ)松(ひ)法(ひ)依(ひ)修(ひ)せ(ひ)常(ひ)曉

阿(ひ)闍(ひ)梨(ひ)美(ひ)和(ひ)七(ひ)年(ひ)小(ひ)奏(ひ)圖(ひ)公(ひ)遂(ひ)ら(ひ)れ(ひ)則(ひ)勅(ひ)修(ひ)あり後日本正月(ひ)後

七日(ひ)の(ひ)神修法(ひ)恒(ひ)例(ひ)と(ひ)く(ひ)今(ひ)小(ひ)絶(ひ)と(ひ)紫(ひ)宸(ひ)殿(ひ)小(ひ)わ(ひ)く(ひ)と(ひ)か(ひ)つ(ひ)と(ひ)

は時談氏のおもむかひり平家(ひ)物語(ひ)曰(ひ)後(ひ)七日(ひ)の(ひ)神修法(ひ)と(ひ)大(ひ)元(ひ)の(ひ)法(ひ)

と(ひ)我(ひ)ら(ひ)今(ひ)真(ひ)言(ひ)院(ひ)伏(ひ)在(ひ)と(ひ)二(ひ)寶(ひ)院(ひ)小

八大龍王社はち一冊余乾の(ひ)た(ひ)あり雨(ひ)あ(ひ)ひの(ひ)附(ひ)け(ひ)所(ひ)ま(ひ)く

秋篠里類字(ひ)名(ひ)所(ひ)集(ひ)の(ひ)平(ひ)群(ひ)那(ひ)と(ひ)あり

草根(ひ)初(ひ)日(ひ)の(ひ)生(ひ)駒(ひ)の(ひ)け(ひ)あ(ひ)ら(ひ)と(ひ)く(ひ)考(ひ)ま(ひ)の(ひ)一(ひ)本(ひ)里而(ひ)本(ひ)漢(ひ)史(ひ)後

伊(ひ)駒(ひ)の(ひ)小(ひ)な(ひ)ぬ(ひ)の(ひ)う(ひ)た(ひ)ま(ひ)を(ひ)あ(ひ)た(ひ)る(ひ)里(ひ)小(ひ)時(ひ)あり

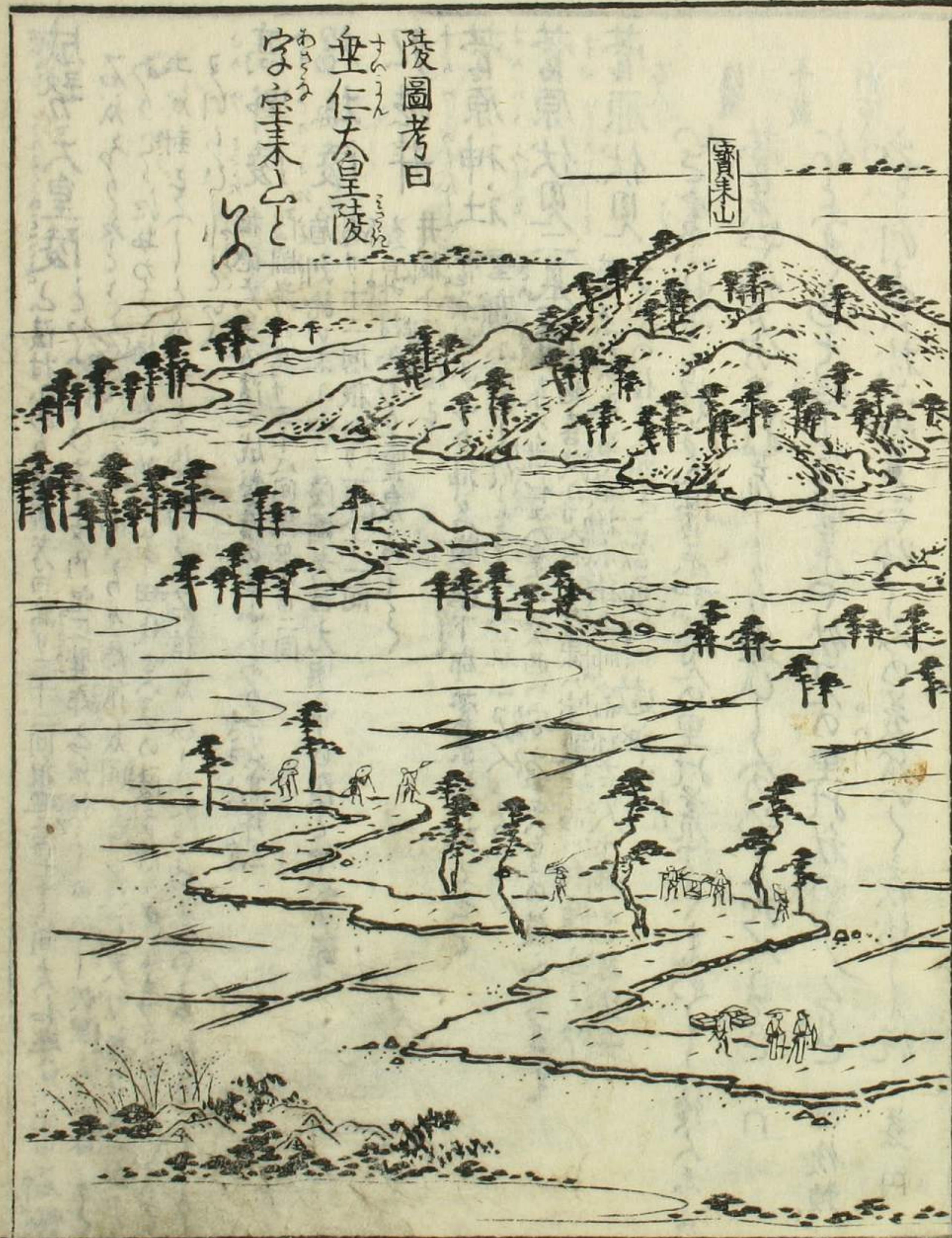
外(ひ)山(ひ)里秋篠(ひ)の(ひ)小(ひ)あり

秋(ひ)志(ひ)の(ひ)外(ひ)山(ひ)の(ひ)里(ひ)や(ひ)時(ひ)雨(ひ)く(ひ)ん(ひ)伊(ひ)駒(ひ)の(ひ)嵩(ひ)に(ひ)ま(ひ)れ(ひ)の(ひ)れ(ひ)は

殊歌(ひ)大(ひ)概(ひ)曰(ひ)秋(ひ)篠(ひ)の(ひ)外(ひ)山(ひ)の(ひ)里(ひ)伊(ひ)駒(ひ)の(ひ)嵩(ひ)の(ひ)ふ(ひ)く(ひ)小(ひ)あり(ひ)と(ひ)師(ひ)説(ひ)云(ひ)

秋(ひ)て(ひ)外(ひ)山(ひ)の(ひ)里(ひ)に(ひ)は(ひ)く(ひ)た(ひ)く(ひ)小(ひ)さ(ひ)な(ひ)ら(ひ)ん

支(ひ)考



陵圖考曰
 垂仁天皇陵
 字宝来山



乃取天

成務天皇陵

成務天皇陵 山陵村あり陵圖考曰高サ三十二間根廻二百七十六間大和巡按記曰石塚
石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々
ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々
土塚封と云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々石塚ありありと云々

高野陵

高野陵 福徳天皇の陵成務陵の西あり高野山あり高野山あり高野山あり高野山あり高野山あり

楊梅陵

楊梅陵 高サ十二間根廻り百八十一間

弘法井

弘法井 井桐小湧溢と

菅原神社

菅原神社 聖廟ありあり神名帳下郡菅原神社と云々

菅原伏見二基陵

菅原伏見二基陵 延喜式小見入り菅原天皇の陵西に安富天皇の陵といつと云々

菅原伏見

菅原伏見 菅原村あり見宿末孫土師宿禰古人士師宿禰道長

後撰

菅原や伏見の里れ荒しより通ひし人のむした人よと云々 懐人よと云々

千載

何となく物と燃しれ菅原や伏見の里れ秋の夕と云々 源後頼

新古今

衣のむすれ枕小菅原やゆみの暮ぬいそ夜終しは 益円

菅原天神社

菅原寺

續千載

子親志と云々

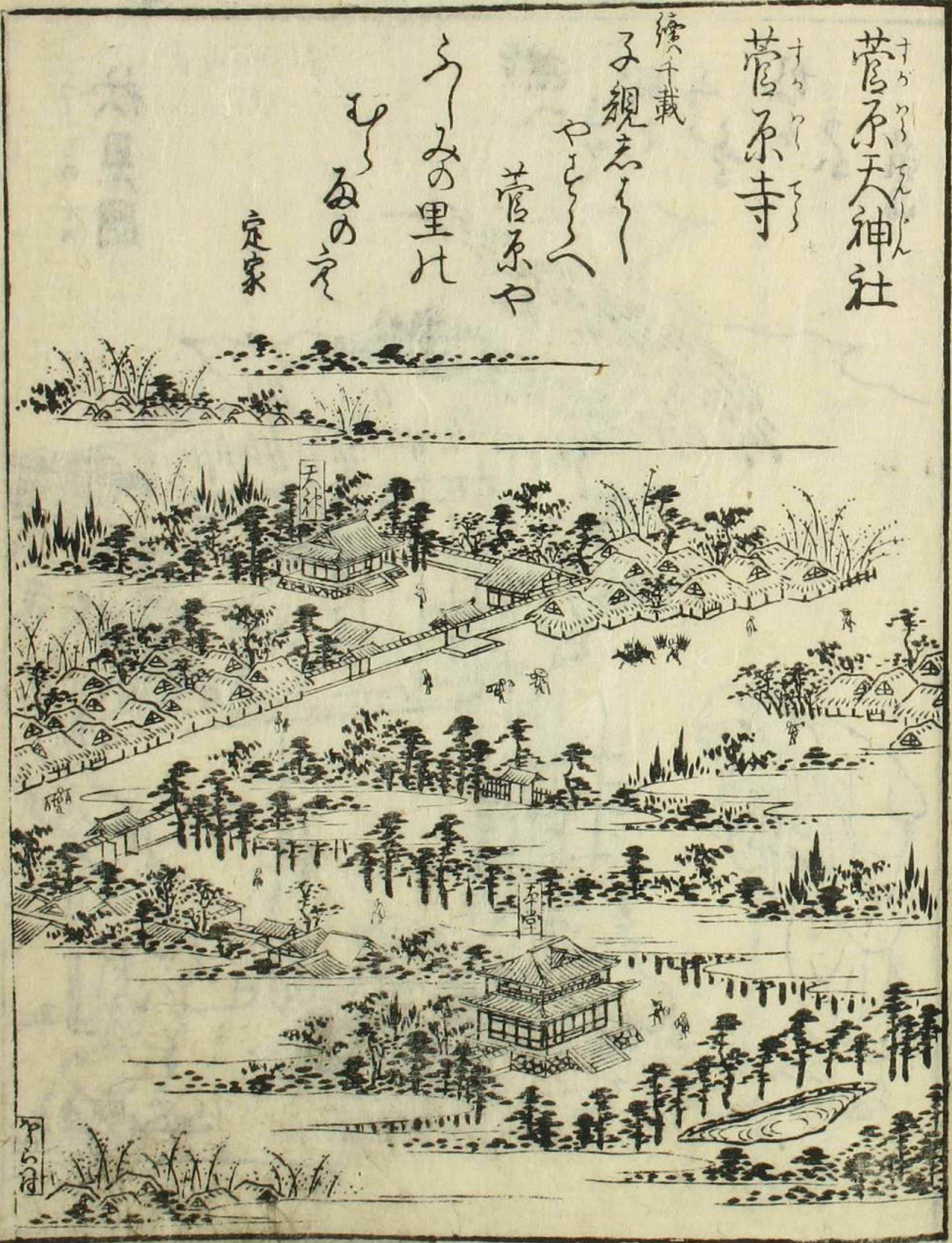
やと云々

菅原や

うみの里れ

ひのえ

定家



伏見岡



菅原寺

菅原村あり 一名喜光寺

仍基菩薩の建き本尊長八尺座像の阿弥

陀如来之聖武帝りありに如来光所放ちのふりて喜光寺

の勅號ありとるんを傳へる夫行基菩薩へる志氏ありて和泉國

大寺郡の人天平十七年大僧正派入任官初基昇元年正月大菩薩

號公賜同年二月十日の東夷院存初の據入寂年八十二入寂

此の月久しくもいれありふり光のくしは大僧正の基

續後撰 初の宿り我そ今更にものふひそれととる也 全

伏見岡

ひうし岡ふさむありてせげし起もあがれおもしくは時枕を

のしるはひうしとるの三里人伏見にありてはけりある時と起

ひうしとるはひうしとるの三里人伏見にありてはけりある時と起

調へて供へるに二倍敷ひうしとるの三里人伏見にありてはけりある時と起

其後翁のり方ありてはけりある時と起

翁のり方ありてはけりある時と起

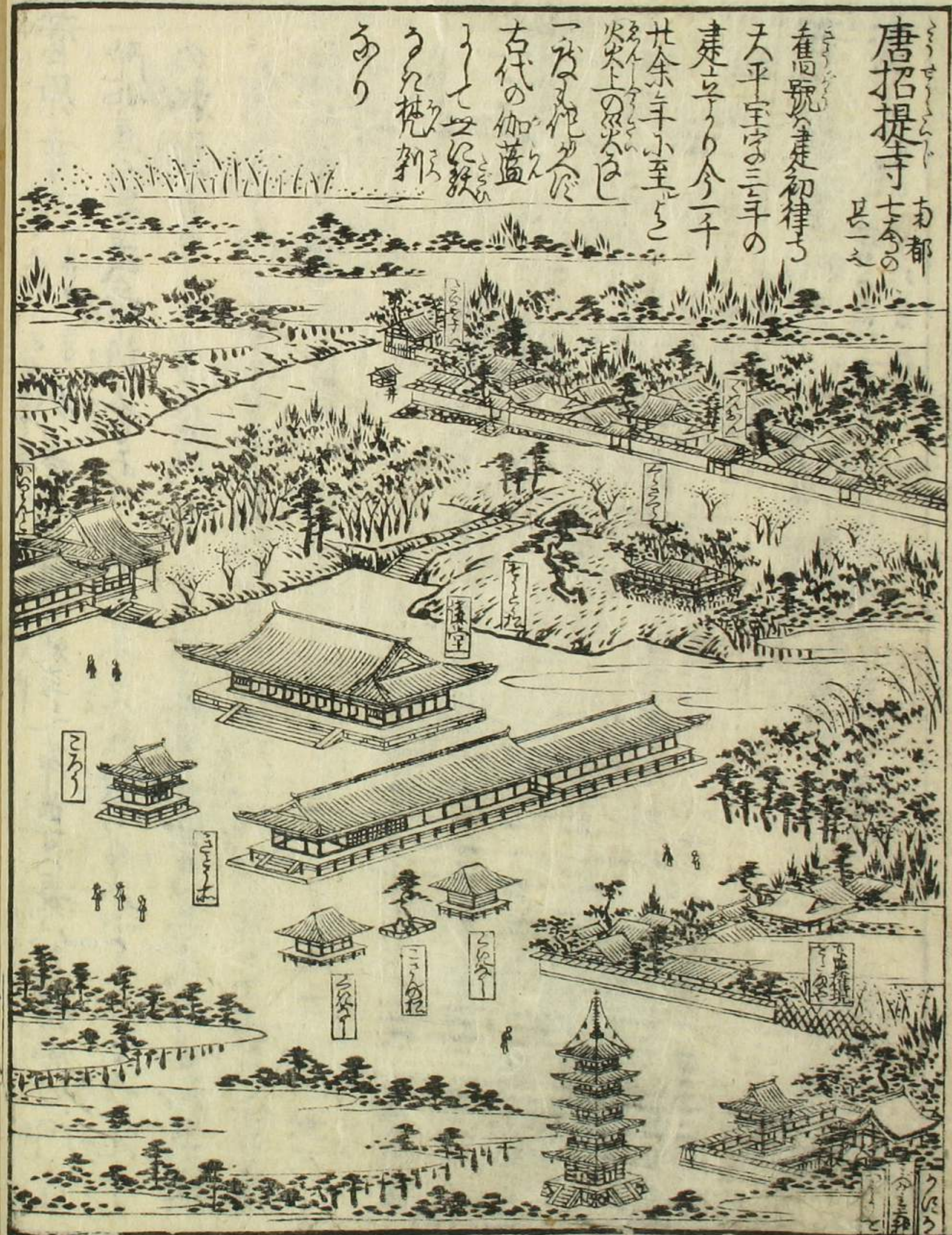
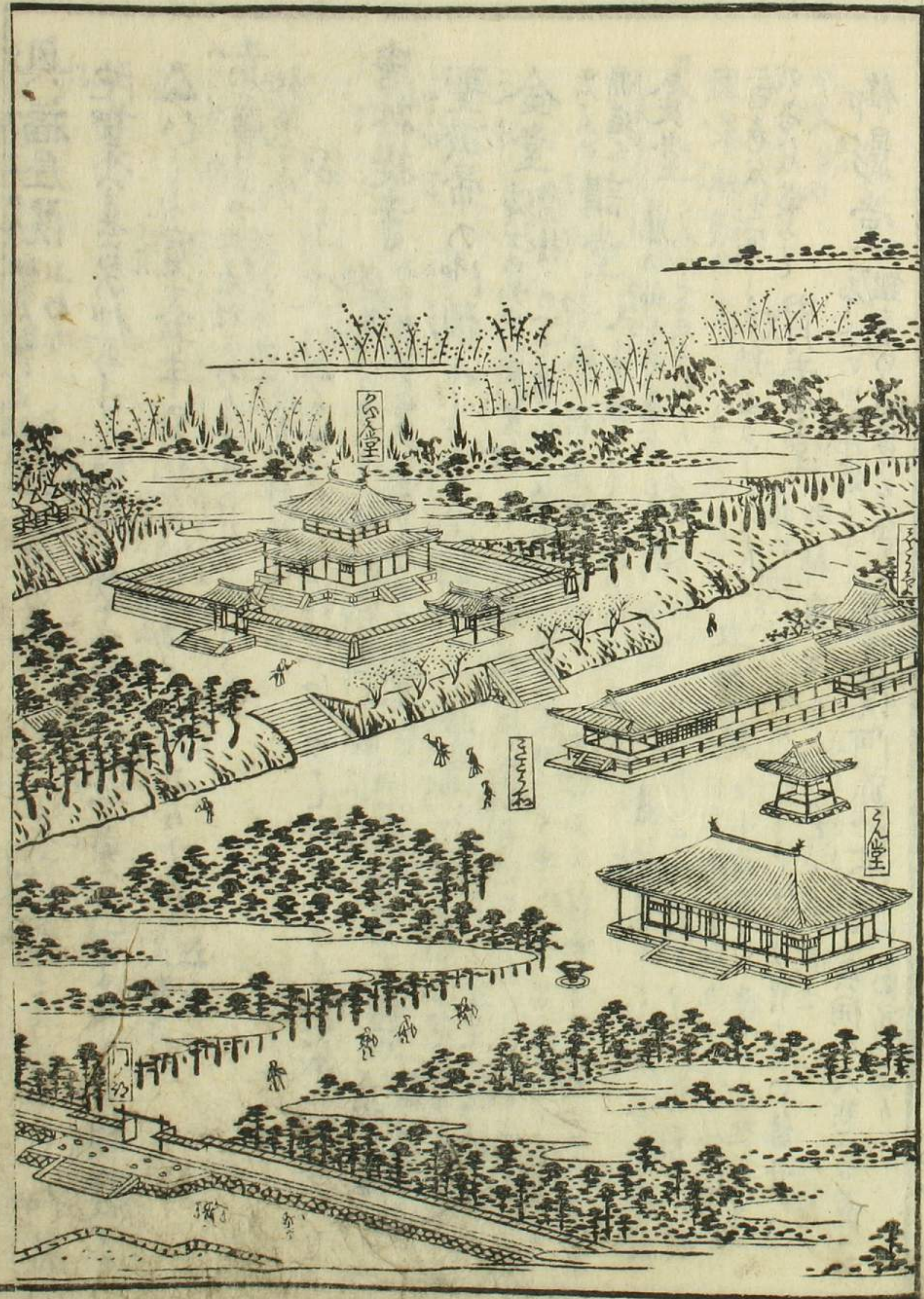
東大寺にありてはけりある時と起

新田部親王

伏見岡東陸の山あり

菅原池

菅原村あり日本紀曰推古天皇十五年



唐招提寺 京都
 長一之
 舊號建初律寺
 天平宝字三年の
 建より今千
 廿余年小至と
 炎上の災に
 一たび焼か
 古代の伽藍
 うして其に
 うれた新
 あり

興福尼院 伏見園の南 圓純法師の位一祈之一名弘文院と号し中尊阿弥

陀如来を喜日の祀あり脇士小親吉勢至安曇とけす久しく頼廢

及び一が寛文五年の秋靈地を賜て再興ありしと 大和社

赤膚山 五條村小あり赤土の元とあり 社

唐招提寺 蓬萊村の南あり樓閣唐招提寺と額 因基鑑真大僧正 真言兼学

聖武帝の御預めしと創ありし靈場 此地に新田部親王の旧宅あり

金堂 後法之如室佛内本尊 文六の釈迦佛が安置其光中千佛あり

講堂 平城の朝集殿あり 造堂あり 弥勒菩薩脇士の二菩薩

食堂 藤の仲公の家あり 経藏 法寶あり 五層塔 日本紀曰大同五年散位江沼

御影堂 鑑真の遺像とあり 西方院阿弥陀堂 中興関大慈悲菩薩

彌勒講武日 孤山松同徐禮百毫之秋月滄海波上遙引深臺之曉雲

佛舍利三千粒 弘法傳通記曰はち光一の什宝之用基鑿真末朝の時海

孤山松 大和志曰寺前 滄海波池 大和志曰今も個々 醍醐味泉 ち内小

龍池と名づけ社を建てる舍利の護神と 輪蓋龍王と号しは時より

関山鑑真和尚 唐の揚州龍興寺の智藏を奉朝去帝の代天寶二年

彼ありしと 大和志曰寺前 其後又海ありしと 大和志曰寺前

吹つり至り 大和志曰寺前 遺唐使大伴宿禰古磨が船のり 大和志曰寺前

東大寺に至り 大和志曰寺前 佛舍利二十粒阿育王塔様銅支提止觀文義文句

菩提子三十晋王右軍の書一卷聖武天皇小舎 大和志曰寺前

中興関山覺盛和尚 又名窮憤上人四條院仁信年中小宮中より菩薩戒

十九日入寂 大和志曰寺前 後深州院中より大慈悲菩薩

と後の位あり 大和志曰寺前

と後の位あり 大和志曰寺前

と後の位あり 大和志曰寺前

と後の位あり 大和志曰寺前



鑑真和尚
 遣唐使
 同船
 未朝
 舟人
 於此
 仁舍利公
 尋興一風波
 鎮守

藥師寺あり 天武帝白鳳九年皇后所疾を治して天皇

茶師如來の堂塔を建んと祈願ありて二百倍の供養を以て

忽小平金を以てせり日本 其頃伽藍の形容を知る人少く沙門祚蓮

入定して龍宮の伽藍のとくこと書しり奏向 帝感ありて

造宮の勅定あり書 其後持統天皇十一年茶師の同眼あり日本 紀叔文武

天皇二年茶師寺成就後日 本紀 けつ大和國高市郡岡本

建多入元正帝親老二年高市郡より添下郡右京の六條

二坊ふりて

金堂 本尊茶師如來十二救及神觀世音二軀を孝德帝の祈願一軀を

二月一日より七日講堂むくは堂 寂勝舎あり文安二年小

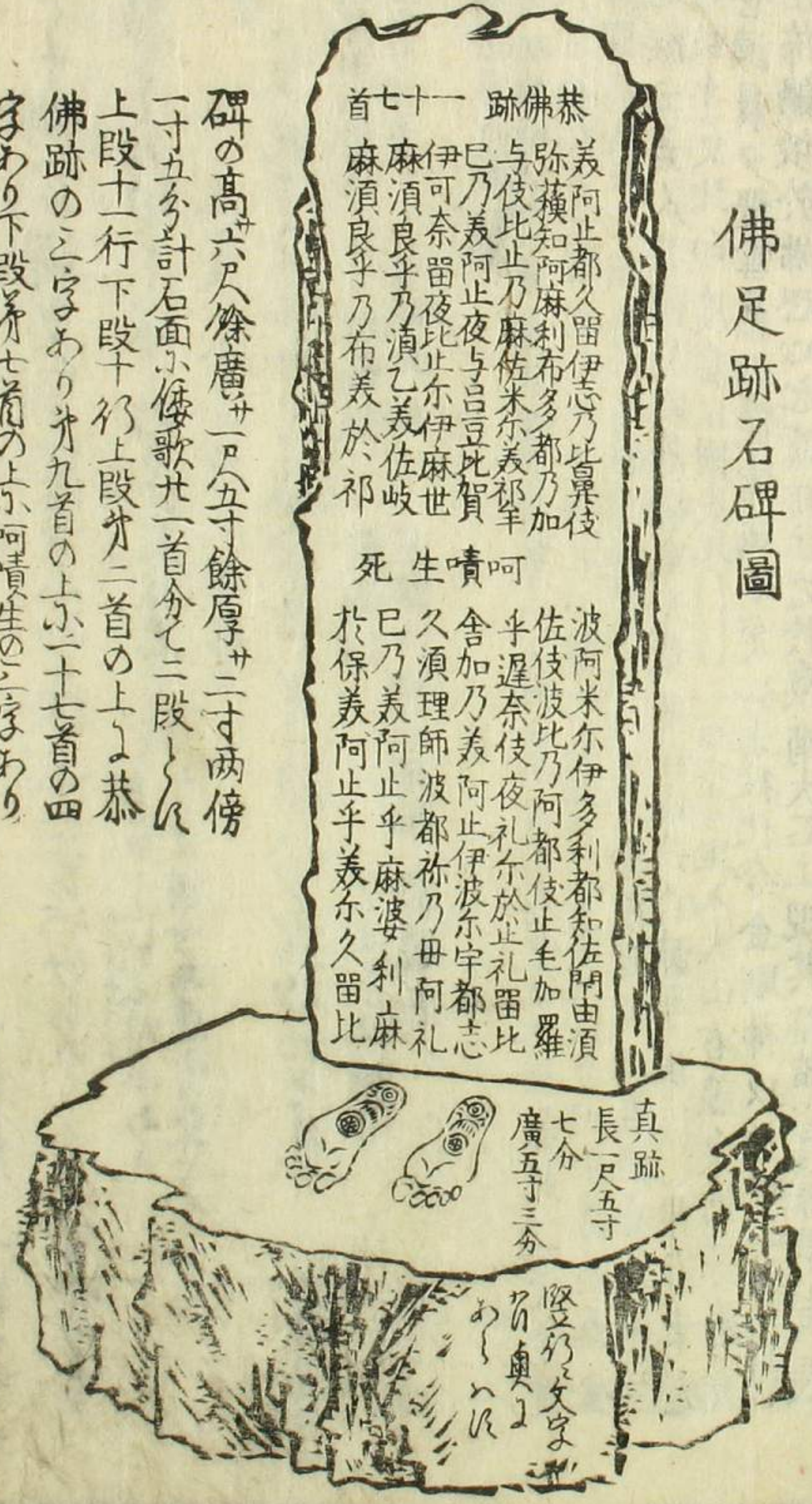
至る今小後 西院舎 大徳帝の祈願立慶長元年七月十二日

東院 本尊觀世音を孝德帝の祈願立六層塔天平二年の建立

文殊堂いりへの塔

佛足跡石碑圖

恭 義阿止都久留伊心乃比尊伎
佛 跡 彌護知阿麻利布多都乃加
与 伎 比 止 乃 麻 佐 米 亦 義 祁 羊
已 乃 義 阿 止 夜 与 豆 比 賀
伊 可 奈 留 夜 比 止 伊 麻 世
麻 須 良 乎 乃 須 止 義 佐 岐
首 七 十 一 麻 須 良 乎 乃 布 義 於 祁 死 生 噴 舍 加 乃 義 阿 止 伊 波 尔 宇 都 志
於 保 義 阿 止 乎 義 尔 久 留 比



碑の高六尺餘廣一尺五寸餘厚二寸兩傍
一寸五分計石面小倭歌廿一首分て二段と
上段十一行下段十行上段廿二首の上と恭
佛跡の二字あり九首の上と二十七首の四
字あり下段七首の上と呵噴生の二字あり
九首の上と死字あり蓋十七首佛足跡の
讚との歌也四首の呵噴生死の歌あり
今この書とる文は十七首の内十首計
の句を摘み其石碑の体相を圖とす

磐石高一尺八寸餘
平面縦二尺五寸
横三尺二寸五分

夫佛足石といふは寺に奉養茶師如來淨造立の時百濟國より獻じ
 大聖釋迦牟尼佛の足形公彫る石に佛足形と基を以て之の像
 公録をりし一記 豎石の碑に聖武帝の頃佛足石を讚し之を詠
 と作和歌といふも万葉假名ありて十七首の中第一の歌は拾遺集に
 今も同小光明皇后に階寺小なる佛迹に於てけらるる歌といふ
 山階よりけらるる後しゆる中來かきしに 舊跡に山列山科小あり
 拾遺 山階よりけらるる後しゆる中來かきしに 邪名所圖今拾遺より
 二十あり二のとりと傳へしはむし人のふれはむとせ 光明皇后

佛足形小け文と 千輪輪相 穀輞相 具足魚鱗相
 彫りあり 金剛杵相 足跟亦梵王頂相 衆蟲相

釋迦牟尼佛跡圖
 考西域傳云今摩揭陀國昔阿育王方精舍中有一大石有佛跡各長一尺八寸廣
 六寸輪相花文帶相名異是佛欲涅槃北趣拘尸南望王城且跣處邊為金
 耳國商迦王不信正法毀壞佛跡鑿已復本處今現圖寫所在流布觀佛三
 昧經云若人見佛足跡恩敬重无量衆罪由共亡滅今俱非有幸之
 所致乎又北印度鳥仗國東北二百六十里入大山有龍泉河源春夏
 含凍晨夕飛雪暴惡龍常雨水災如來往化令金剛神以杵擊山崖
 即佈歸依於佛恐心起慈跡示之於泉南大石上現其跡隨心淺深量有長

短今丘慈國城北四十里寺佛堂○中至石之上亦有佛跡齊○日放光道
 俗至時同住○修觀佛三昧經佛在世時若有衆生見佛行者及見千輪
 輪○相即除千劫極重惡罪佛去世後想佛行者亦除千劫極重惡業雖
 不想行見佛迹者見像行者少之○中亦除千劫極重惡業觀如來足下平
 滿不容一毛豆下千輪輪相穀輞具足魚鱗相次金剛杵相足跟亦有梵
 王頂相衆蟲之相不異諸惡是為休祥

文室真人淨三

大唐使人王玄策向中天竺為○國中轉法輪○向見跡得轉寫搭是
 第一本日本使人黃書本實向大唐國於普光寺得轉寫搭是第二本兵
 本在右京四條坊禪院向禪院壇披見神跡敬轉寫搭是第三本從天
 平勝寶元年歲次己丑七月十五日至廿七日并一十三箇日作了檀主
 從三位智努王 天平勝寶四年歲次壬辰九月七日改書寫成文室
 真人智努畫師就田安方書寫 ○扣 ○智 ○努 ○

伏願為 亡夫人從四位下茨田郡王法名良式敬寫釋迦如來神
 跡伏願夫人之靈魂高遊入无勝之妙邦受 之聖 ○ 永
 脫有漏高證无為同霑三界共契一真

諸行无常 諸法无我 涅槃寂靜

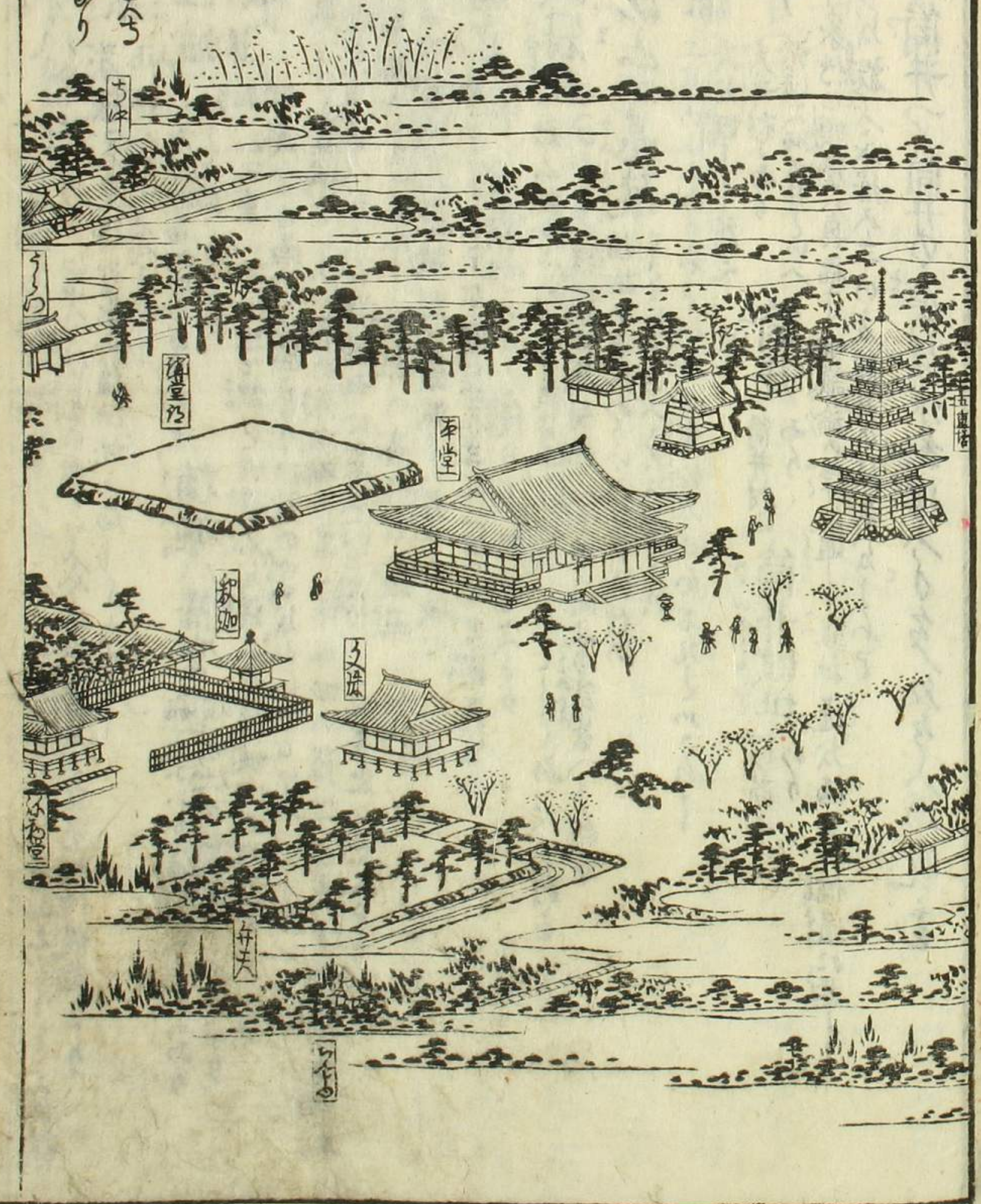
文室真人淨三 天武帝皇子 長親王の子あり

東塔露盤銅柱銘 維清原宮取宇
 天皇即位八年庚辰之歲建子之月以中宮不念創此伽藍而鋪金未遂
 龍駕騰仙大上天皇奉遵前緒遂成斯業照先皇之私誓光後帝之玄功
 道濟郡生業傳曠却式於高躅敢勒貞金 其銘曰 巍山魏蕩蕩藥師如來
 大發誓願廣運慈悲哀荷猗聖王仰延真助爰飭靈宇 莊嚴調御亭亭
 寶刹窈窕法城福崇億劫慶溢萬齡

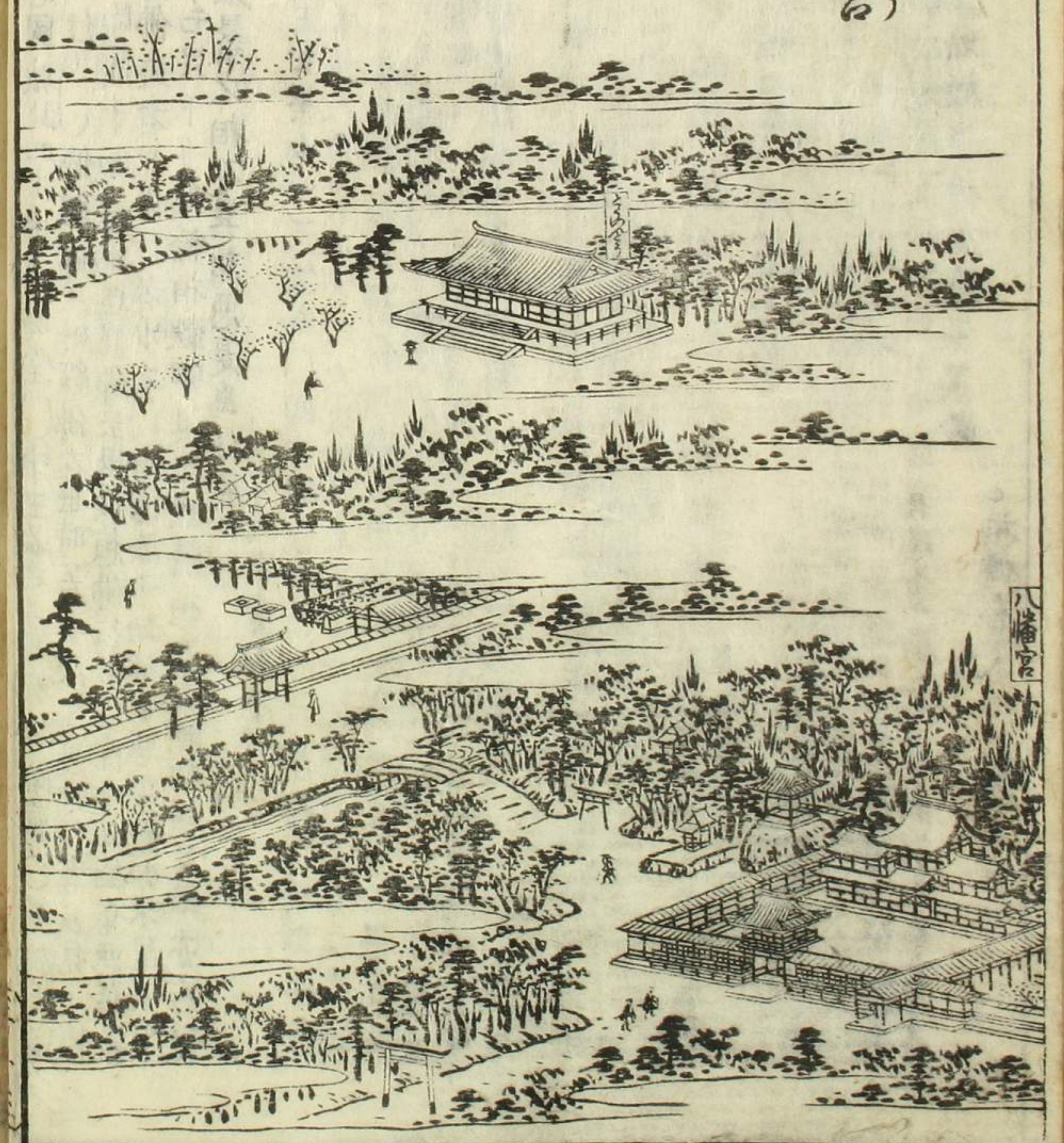
相傳舍人親王題書云

東都寺あり
其一あり

菜師寺



西の京
八幡宮



鎮守八幡宮 貞觀元年(861)和尙大安寺の八幡宮をうつされり其時を以て鎮守に依り

系 孝謙天皇御出家の後北小幡に依り

郡山城 大和志曰小田切宮内女補春次 植槻八幡宮 郡山城にあり

羅城門 郡山の東小あり田を耕む所礎石あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

羅城 平城宮の南門小あり 羅城門の銘ありと云々

鍋倉山東明寺 大田村の 舎人親王の建立あり

安曇寺 大田村の 舎人親王の建立あり

金剛寺 大田村の 俗小大田と云々

の勅額 大田村の 知通僧正

三藏小唯識 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

菩薩 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

送 大田村の 地藏菩薩の信教

ら 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

焰魔王宮 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

罪 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

の 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

戒 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

戒 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

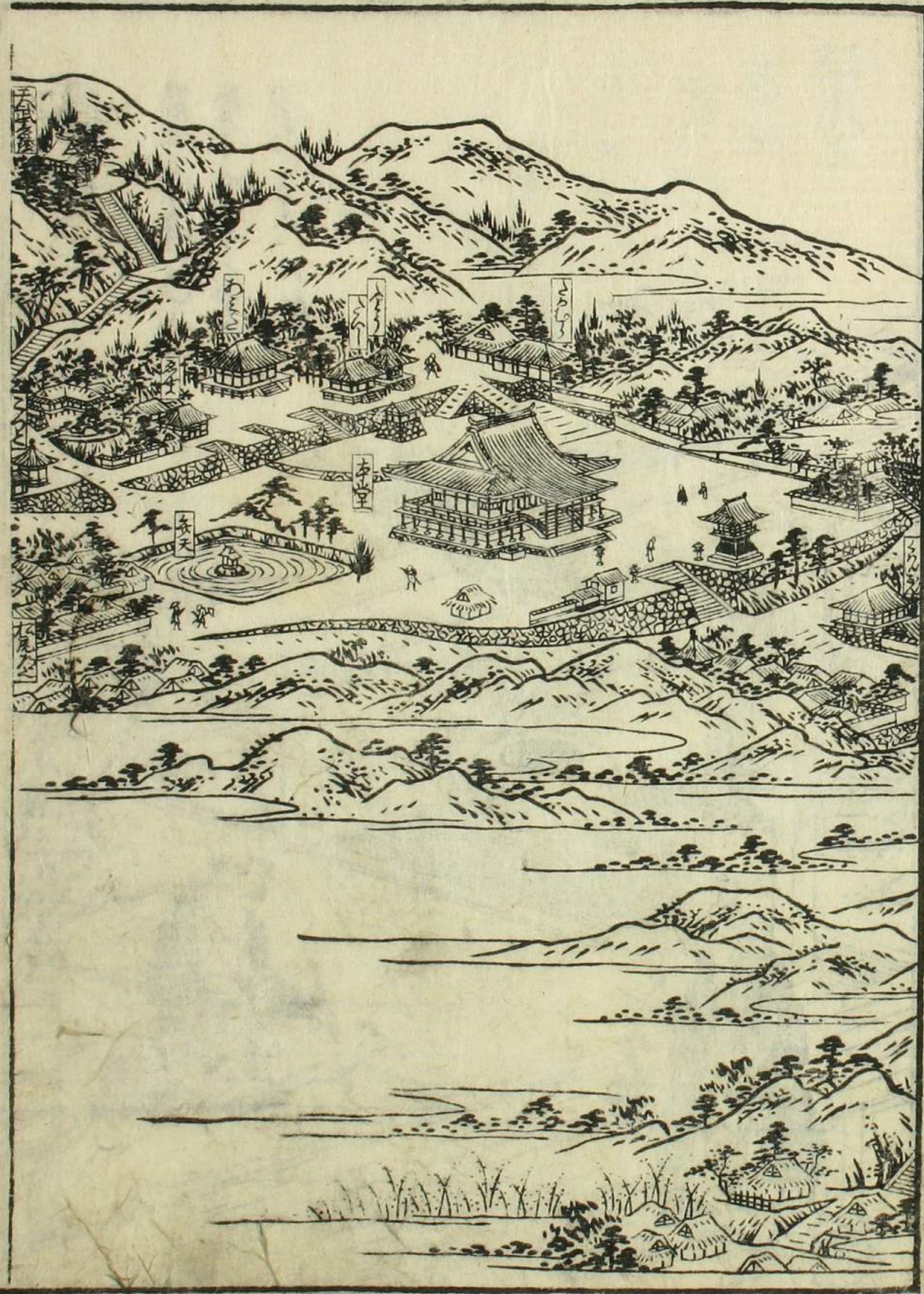
戒 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

戒 大田村の 僧朝の後白鳳元年二月僧正たり

上人のともふりてまわりのゆると申上人あははこと尊手共いり
即ちて瑛官ふりて則上人が師子の座ふあはんとく炎王が
よりなるいひけ菩薩戒なるけあて後ふふ布施にはいせん上人
地獄の苦報なるんを我れがくくれ則炎王上人が得くの好ひーが
忽尔阿鼻城にいつりたえつてその鐵門の風銅釜の焰が吹さびるせよ
よの劍の枝なつて鉢池よ血の焼とて其外支苦の流せねあまふに
それを申に法師ひとり指ふころありたりいふとわやに衣を
はとひあがてて苦小せあつてとて我れ是地蔵菩薩の坐の
昔ふつりてくくのくろーとてうけされとも縁の流せしとを
くふれたよりかー汝安婆世果ふつて我に縁をむとていぬよ
又くの苦なるるふのふれ上人あ礼しく立降らるゝ冥使
くはぬりの箱一つと上人ふまは板安婆ふくくか乃箱ふ
ゆりける白米満くつりたに海ひくみはるほどふけ涯いゆ

やとて釈さる地蔵尊を造立せんとも良工かすのこめとむ化人乃
来つりて化つることを長又尺今れ本尊とてこ上人のり乃名い
満慶の白米が得れより後の満米上人と我れ本尊の脇士小
親者若祥大戸のり小満米上人小野篁像堂の乾の文武帝神上りあり
は米上人篁の神あり満米上人小野篁像堂の乾の文武帝神上りあり
小野篁の家守の息男仁壽二年小卒とて五十七破軍星の化身也
いつり小野
補陀洛山西松尾寺夫田の大武帝の皇子舍人親王の所願へ本尊
十一面觀世音の親王の化大黒天の弘法大師の化之是市守長者乃
持佛といふ舍人親王の石塔の本堂の後ふあり鎮守の松尾大明神
これハ酒神ありて山城松尾と市同神也
赤禱墓赤村ふあり赤禱の物部守屋
勝田池古来より所てて茶師ちのかとてりる人
顯仲良王集古衣枕袖中抄ありての説あり分明なり
万葉

此の池に我る蓮が志のりるる如し



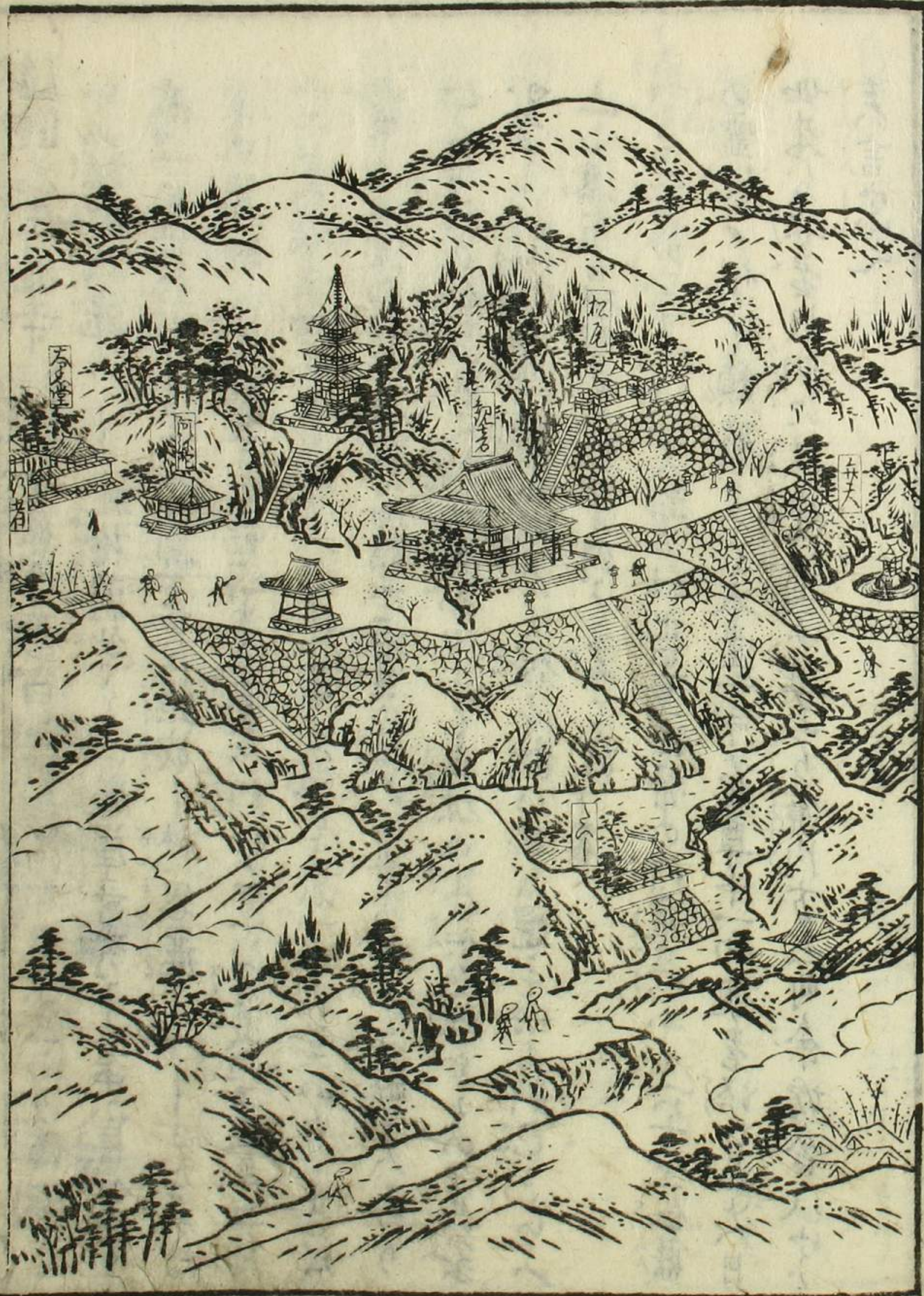
やのち
矢田地蔵
えんり
金剛寺



松風小
 藿の
 のよか
 志
 一
 道



筒井
 筒井順慶つゝ小
 愛して茶湯
 月ひさしと花



松尾寺

海瀧山王龍寺二村小伽藍園基記曰和列添下郡の西小あり海龍と

い入林壑幽邃あり松檜蔚然あり巖崖奇秀あり中巨石あり

高一丈五尺計りて十二面觀なる鑄成一梵容麗ありあり

この尊敬なげに左不動明王の像を刻む右小建武丙子三年二月

十二日大願主僧千貫行人僧千歳と識と上小一字の堂ありと云ふ

露のう堂の傍小伊努石清水春日の祠あり堂の後小弁財天あり

け守護の伽藍神の村民無知あり山林の本石を侵ととの其家

あるに禍に罹り過か悔なく侵と祈の物を還と時を則己とし

小瀑布泉ありこれふのく名と云下里者

真弓山長久寺上村小大和社記曰聖武帝の所建立い小一七堂伽藍

の靈地なりとも類廢あり本堂一字本尊十一面觀者塔一基大日

如来安坐に側に法守八王子社あり境内方二町余坊舎八宇

夫言宗云

鼻高山靈化寺伏見園の

山號とあり又南大竺の婆羅門の基と云く通の耐靈との

釈迦の沛中人にちたりて一の和ありち號とあり本尊の茶作如来

脇十二神將あり小の基の化との層塔あり法守十六所権現

ありの基の位ある室の本堂の北の方小今小持佛堂跡あり

迹見池沈田村小あり

日本紀曰垂仁天皇三十五年

登彌神社本塔村小あり

寶山寺生野小般若窟後小角修乃の靈窟之中興寶山和尚本堂

の中尊不動明王左右於迦羅迹多迦地藏觀者化

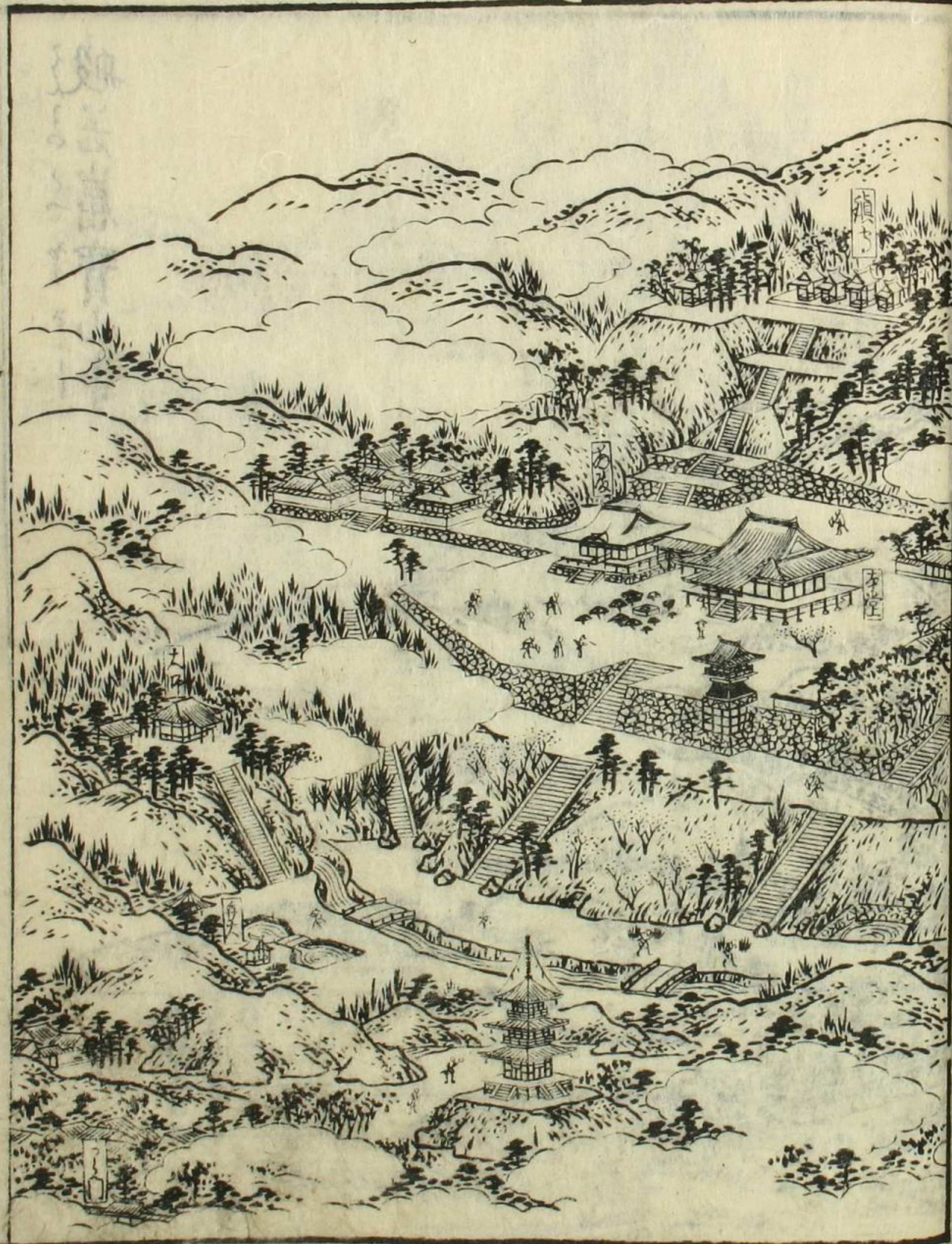
歡喜天祠本堂の傍常念觀者堂本堂神の雲上閣本堂の

彌勒佛岩腰小あり辨才天社舊よりけとの役行者堂仍者の洞

十三級石塔婆岩頂の上小あり内小佛舎柱 其寶山和尚姓は田氏智別安懐那一色村の人延室六年十月

十日始々當の般若窟小入一笠一夜袂に隨身一樹下小安坐にあり
夕暮小黒色の大夜又未現一寶ふん捉く曰汝何ゆ我こよ未夜
そりや寶ふんの眼忽小瞑て氣絶せんは時小不効か念くく名號
と唱へ力十倍してつひに何者そと同一夜又神答くく逃去は
其後岩社の神小始して般若石純の夜又の肌層小似り是小信く
の神の来試と知り一日藪の里人來つ當の禎ち弁財天乃像
近世下の俗家に安坐は寶ふん別々あ授し改く祠を建延寶
八年四月朔日より五日断念く八万枚の護摩を修し本堂不動明王の
彫刻を又自弥勒の像を鑿て岩窟に安坐其外を上閣の虚空藏の
安坐一觀音院の觀音を居り星霜二十年に至るく一峯
大伽藍とあり初大聖無動寺と号し後改く寶ふん寺といへ中古無
比のり者へ正徳六年正月十六日入寂 年八十八本堂の額弘法大師乃
求修く寶ふん寺と改じとらん 寶ふん寺と銘を母にこれん
和漢三才圖會小入ん

星森泉 大和志白由系村小あり清み常小渾くともがれ早に潤を霖雨小渾は
巖船神祠 南田系村 舊事記曰饒速日尊大神御社の詔に襄く大
般若船小乘て大津の河内國河上喙峯に坐は河内志曰河上喙峯を護
良郡田系村小あり今石船と號は峽中の石あり長五丈計は溪あり
石下の通入和別南田系石船明神の神樂に遷寺は因く石船を
今其禮式廢はとも毎歲正月晦日村民お集り禊事の修と
し神坐石交野那に属は 諸別めら 鳥信 之石舟より入ては谷中
七八町東に谷の内頗廣し其中に大川がら其里は田系といへ川の
東は東田系といへ大和國へは西田系といへ内國より云
龍王峯 石上村小あり龍王祠あり早小 黒溝池 小あり
北の越 藤田村より國境まで其西 私部越 村へ出は 清瀧越 小あり
岩船越 の別私系村へ幡祠 小あり 押熊祠 小あり
秋篠川 大橋川といへ秋篠村に至るく北に至る



靈仙寺





山

山頂

山頂

山頂

山頂

般若山窟寶山寺



般若山窟
寶山寺
あり

鬼取山
鶴林寺



御櫛社

榎系村小あり
神名帳出

山口社

榎系村小あり
神名帳出

阿弥陀井

西向村
小あり

福貴寺

福貴村小あり
通詮法師求印持の法が修りし所之通詮(武列の)

鬼取山鶴林寺

平群郡生野の麓
本多茶師如來あり
けさの旧名を

般若岩屋といふ鬼取に後行若依学依賢の二鬼かといふれ

所といふれを後行者といふ小いさかきといふ鬼神あり

けういふいふ命かそむく者小に祀縛あり之故に随ひてまの

竹林寺

竹林寺あり
基菩薩の建ちて文殊大士の本尊といふ

菅系といふ入寂ありといふ遺祠ありといふ堂の下小に納り

小倉家

小倉村小あり
神名帳曰伊古麻都比古神社二座並大月次新堂

教弘寺

小倉村小あり
あり良か方に嶺あり俗に鬼の城といふ

往馬社

一分村小あり
寛文文記曰生駒祠七社生駒堂十七郷の氏神也

生駒山

西谷内小
豊平寺あり

久々のまおふんといふ山といふ山といふ山

王... 生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒谷 西畑 藤尾 萩原 小平尾 乙田 小瀬 一分 右里 大門 鬼取 小倉

水漉石 生駒のあ... 定家

安明寺 女明子村あり俗小葉堂... 聖徳太子

金勝寺 柳原村あり堂の... 聖徳太子

法起寺 岡本村あり... 聖徳太子

千塚 其の... 聖徳太子

平群祠 西宮村あり... 神名帳出

櫛本社 梨本村あり... 神名帳出

薬師井 白石畑村... 聖徳太子

駒塚 今岡の系も... 聖徳太子

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

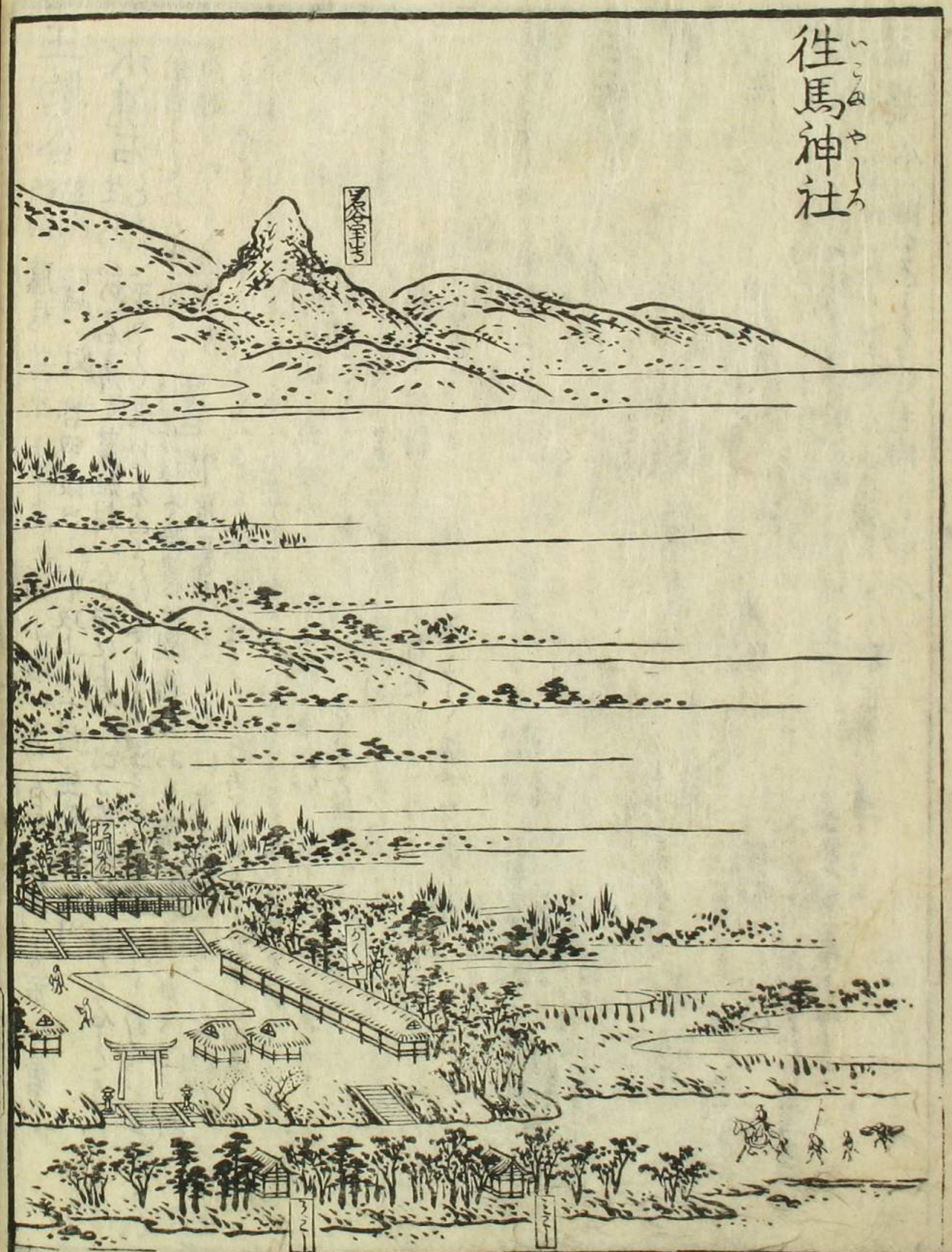
生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家

生駒のあ... 定家





新子載

時をいづぬの

ふやらのん

るつるまの

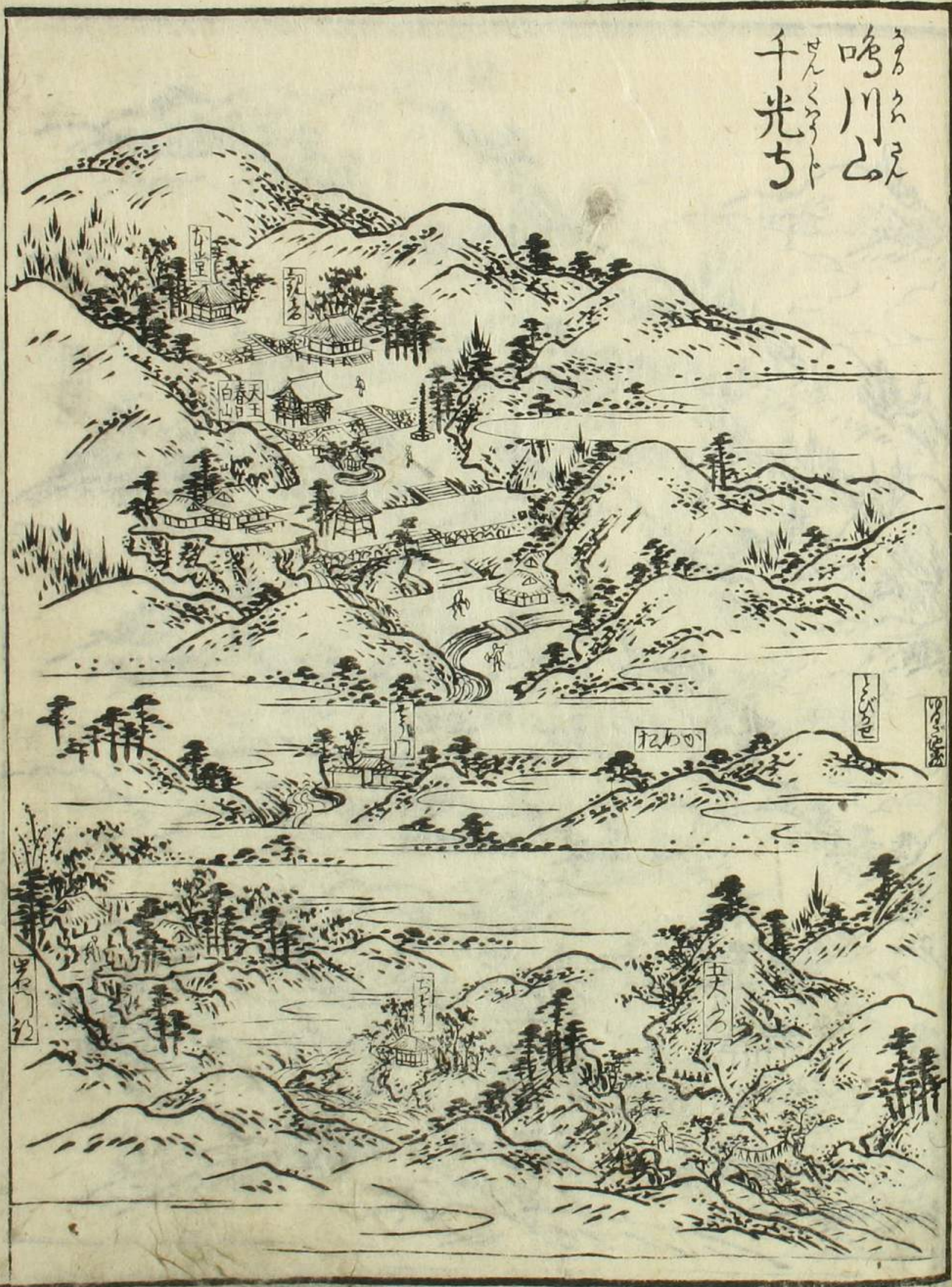
外小ふく

うり

光明寺入道

虎持政九大臣

鳴川と
千光ち

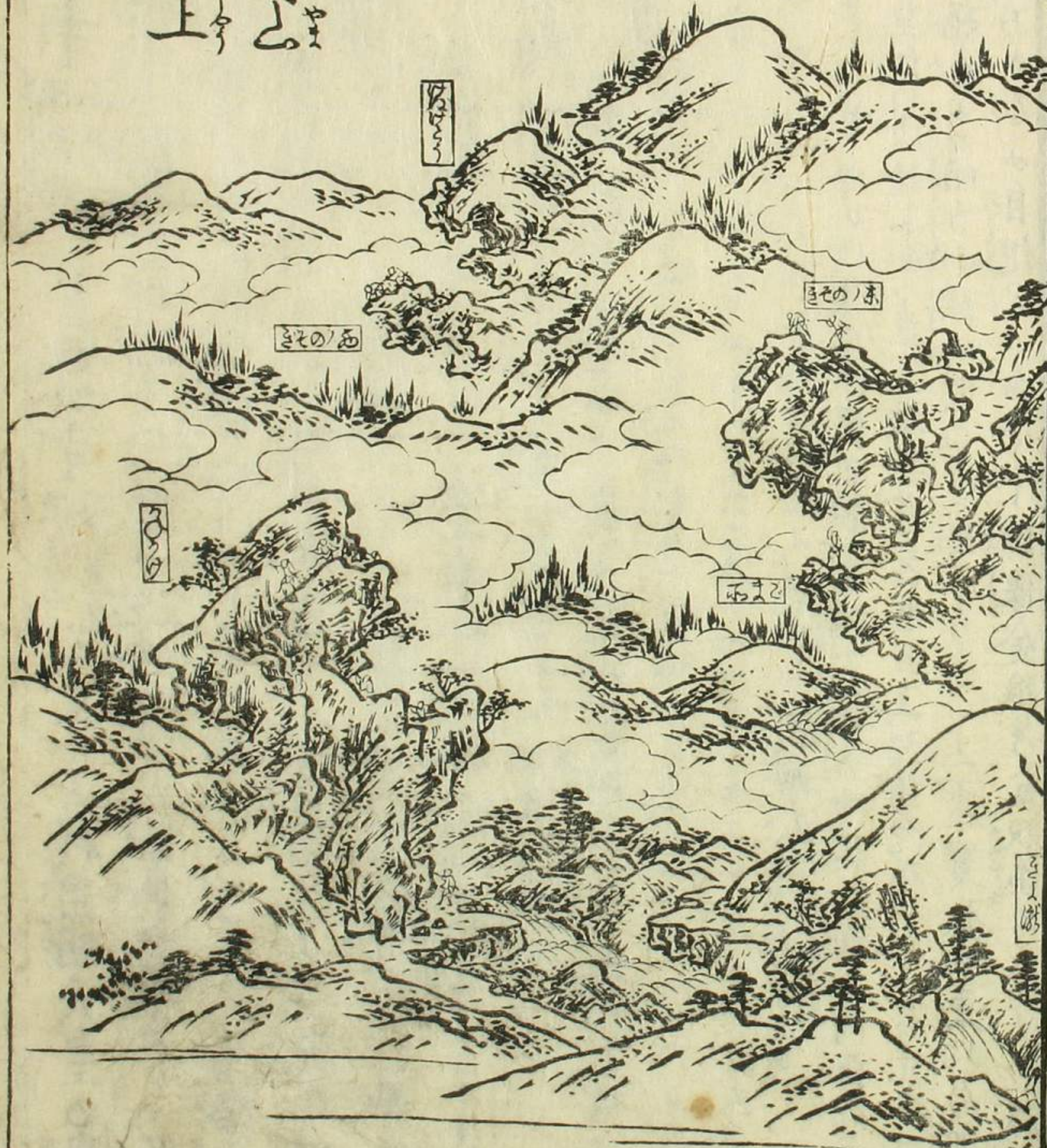


法輪寺 法起ちあり并村小あり推古帝年中
舟塚 舟の塚の舟地あり
調子丸家地 八日初く百海王あり
北岡墓 法隆寺村小あり
斑鳩里 法隆寺の東院の地之斑鳩群居せしり
因可乃沈 法隆寺の内小

富小川 源下郡より流れ高安に至り大池川といふ
新千載 富緒川の源あり
拾玉 富緒川の流を汲ぬ法あり

乙朝
弁乳母
源忠季
推橋正良聖
赤相國公経

鳴川
元上



法隆寺

平群郡 舊名斑鳩寺 法相宗 八宗兼学 人皇三十二代用明天皇の皇子

聖徳太子龍田明神の宮（小幡）に斑鳩の地に伽藍を造る。一

名七徳寺といふ。金堂儼然として西に輪藏を造る。鳥路を

号し東に鐘樓あり北に講堂あり南に法隆寺といふ。乾に鎮す

の社頭を祠として寶藏を造る。南に法隆寺向方の山麓を

金鼓の二口をくわたり上堂奥院大湯を伽藍苔せしむ。松

風宝鐸小者信を法の尊とす。南都七大夫の

金堂 大和社記曰金堂の四方正面より釈迦の三尊像を佛師の

あり右を弥勒如来淨母向人皇后の所とせり。造りて其脇に多門大度目

大あり何れも佛師所造の金佛之具前に持國天の神像を造る。唯

持長天の孝謙帝の所願之東面正觀者推古帝の所願西面阿彌陀三尊

光明皇后の所願北面虚空藏菩薩菩薩其脇に阿彌陀佛あり。若光の撰

りて鎌倉の明王小條時頼の寺の進よりといふ。靈寶録曰東北乃隅

伏藏あり太子自化して佛像金銀等々収蓄する。釋迦

誕生佛は毎月八日佛生會に出し。堂より於て毎月七晝夜乃同最

勝王經天下泰平乃淨初禱あり太子の封ト。並あり香を焚く。牛王

牛王を押さる。

講堂 寛文記曰大徳堂は茶師の三尊四大像。實頭盧尊者。安曇

出之釈迦。阿彌陀。如意輪觀音。不動。茶師。釈迦誕生佛。五大尊。達磨

十一面觀音。八歳龍女。舍利。伽羅多山地藏。愛染。其外畫像を造りあり

五重塔 大和社記曰その塔を四方正面之本面阿彌陀の三尊。東面

佛師土師の造り。像を王林抄曰は塔婆の社を初寺といふ。乃

は日守屋の首の櫃に入。法隆寺建立の時廻廊の西北三向の柱乃

下に瘞むといふ。中門乾の

上堂 寛文記曰本尊の釈迦三尊丈六像四大天王長七尺

大涅槃像。釈尊八相成道の画像

西圓堂 寛文記曰八角堂形造り。本尊を茶師如来十二神將の佛を

世の人徳願の爲に力及外移のあり納く堂内にみたり。は孫小

徳孫社あり。靈寶録曰圓堂の光明皇后の淨母公橋太夫人の造る。

大經藏

靈寶錄曰經論聖教多納之奉尊以鉢陀佛其日也
け内不伏藏あり當た二伏藏の一ツあり

手水屋

灵宝錄曰後漢熾上皇臨幸の時手水所之
藏王権現の安座に役り者の所也

三經院

灵宝錄曰奉尊河鉢陀佛の基元文殊弥勒四天王
毎年一夏九旬天子御遺願の三經講談あり今に及ぶ

七種寶器

あり秋尊より勝鬘夫人に授けり
天子御自外題に所の皮と押めり真珍子神代皇物之賢聖瓢
春秋飄々として孔子等此聖賢の像所足印天子御足の跡に踏出
しの人梓真子六目摘守屋大速が所退治の時軍器より其外畫像
書軸のこゝあり

聖靈院

俗小を子堂として人皇を子攝政東帯の遺像あり大兄王子
殖粟王子茨田王子 惠慈法師 已上多佛師の他其外のこゝあり

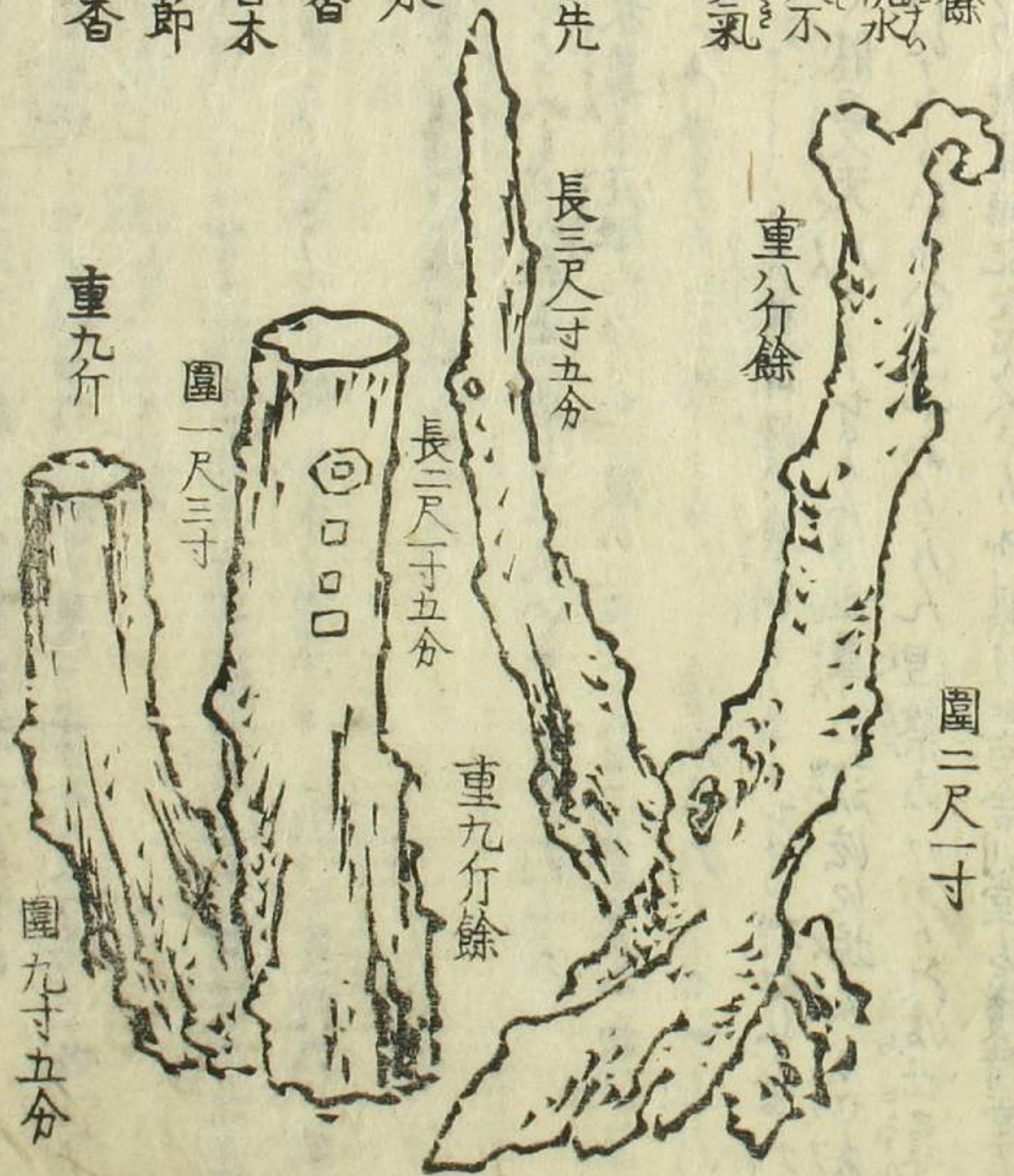
沈水香之圖

日本書紀曰推古天皇三年夏沈水
漂者於淡路嶋其大一圍嶋人不
知沈水交薪燒於竈其烟氣
遠薰則異以獻之

南越志曰火列有蜜香樹欲取先
斷其根經年後外皮朽爛木心
與節堅黑沈水者為沈香與水
面平為雞骨最麗者為棧香
梁書曰林邑國出古具及沈香木
土人斫斷積年皮朽爛而心節
獨在置水中則沈故名曰沈香
次不沈香者棧香之屬

沈水香之圖 二十斤餘

圖二尺一寸



大明一統志曰檀香出廣東雲南占城真臘其味清泥暹邏三佛齊回回等國今
嶺南諸地亦有之樹葉皆似荔枝枝皮青色而澤
楞嚴經曰白旃檀塗身能除一切熱惱
華嚴經曰摩訶羅耶山出旃檀香名曰牛頭塗身設入火坑火不能燒

靈宝録曰 御鏡之西 四大王紋錦旗 糞掃衣 伎樂面 上代鈿飾 古代大指
御齋 雷琴 銘曰開元十二年歲在甲子五月五日於九龍縣造 其外とくあり

律學院 聖觀音 愛深明王 宗源寺 常念佛修仍のちこ

東院 日本紀曰推古天皇九年二月皇太子初宮室公班鳩に興に
古今自録抄曰地公班鳩といふはいつらが教万集り常に下を看くを人
其所に宮を造り班鳩宮と名づく後にはとる

夢殿 八角室形堂之上光院之上宮王院といふ 天室録曰本尊觀世音菩薩
聖觀音東面九面觀音西面右子像沈水香木より太子聖化乃觀

世名あり毎月十二日拜あり
神順礼記曰推古二年に神堂入道殿道長よりせり

大君の神をせりていふは後殿よりいふはとる

舍利堂 南無佛舍利 釈尊の左眼之を二歳の二月十八日に東方を向ひ南
無佛と唱へ神の神堂の内に出現しあり 舍利されし者を仏乃

尊號あり又佛法家初されしと見佛国法の舍利と申すは佛舎利
は太子のちのちなりしと勝曼夫人と申すは世尊の流法に垢衣の心を
にそぐはしと迷ふは覺るにいとふふありん 涅槃のけりて後世尊
の左眼の舍利を得たりと杖末略記に曰くより神順礼記曰舍利堂を護持堂と

いふ毎日午の上刻に鐘七聲が響りて舍利儀ありしは鐘聲七をいひしは
玉塔の舍利がせりて一徳満の形ありしを利益元生の光あざやなり
はよりしは神の舍利の月の朔に黒点二を視し日々に増して十五日を満と十六日
より日に減く北日小一と名づくはとる

南之佛の舍利がせりし七の鐘むりしとそを今の双調 紫式部

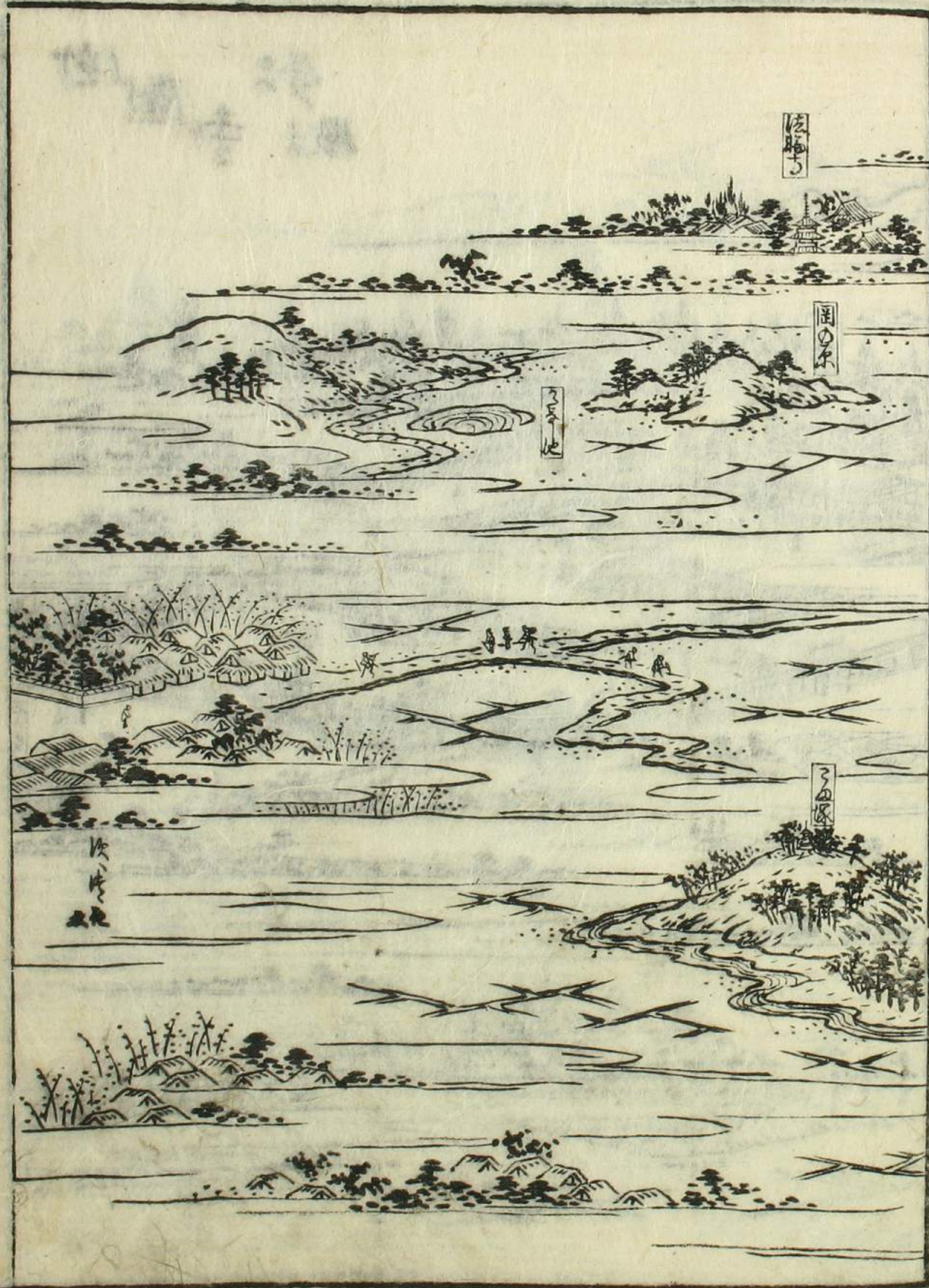
法隆寺の舍利の神とて歌かみん
むらりありしは病の林かみんとていふはとる

靈宝録曰法義經の首題用明帝の表 法義義疏四巻太子の神眞足
本朝伝書割作の巻に洞蕭推坂ゆくは神の吹かぬ神あはれり今の蘇莫
者の舞をいふ 鎧 鉞 石名取王 火取王 水取王 太子神初推の時の神所持し
鑑守を法義の時の太子の神とて

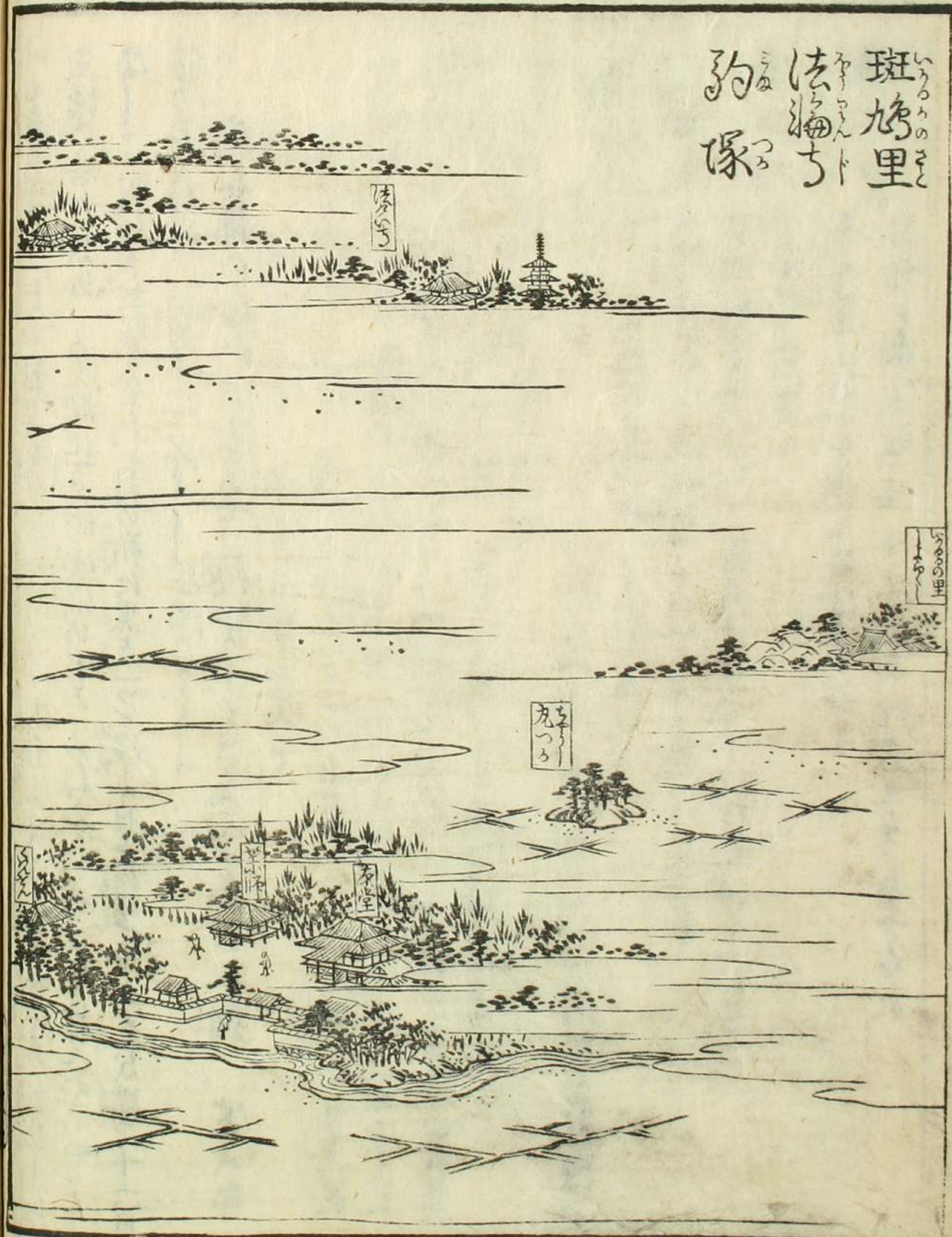
繪殿 武殿院と号しとて神一代の令圖を神にありしなり又後之藤原
延久元年拾津國奏致良とて畫に
愛違觀者あるなりとて神の神にありしなり

御相殿 靈宝録曰太子七歳神教聖武帝の神化百海國よりなる
神傳披人の神と

傳法堂 本寺の法隆寺之尊九品淨土の神と
脇壇に觀者集至千の十一面地蔵を安んず

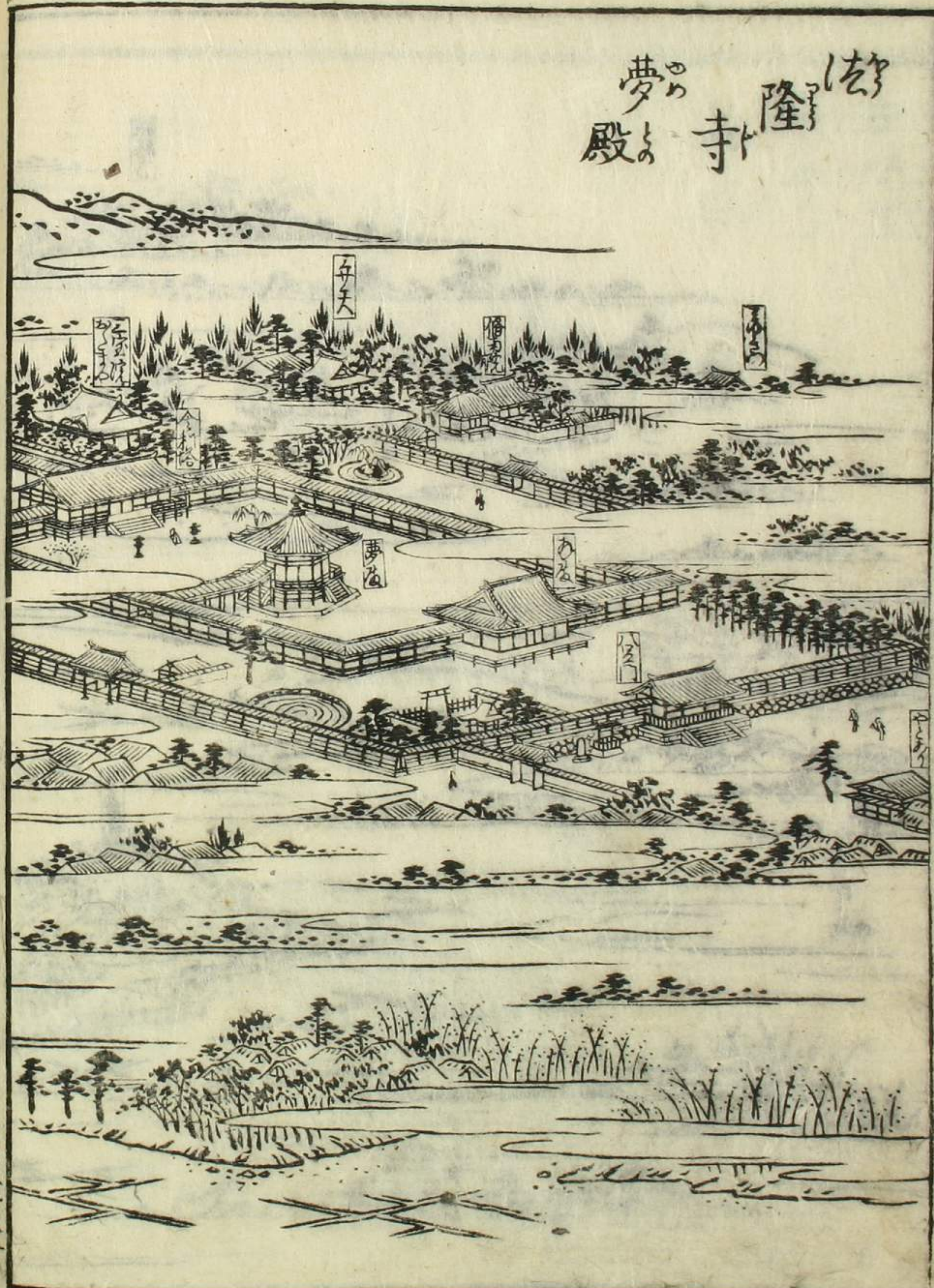


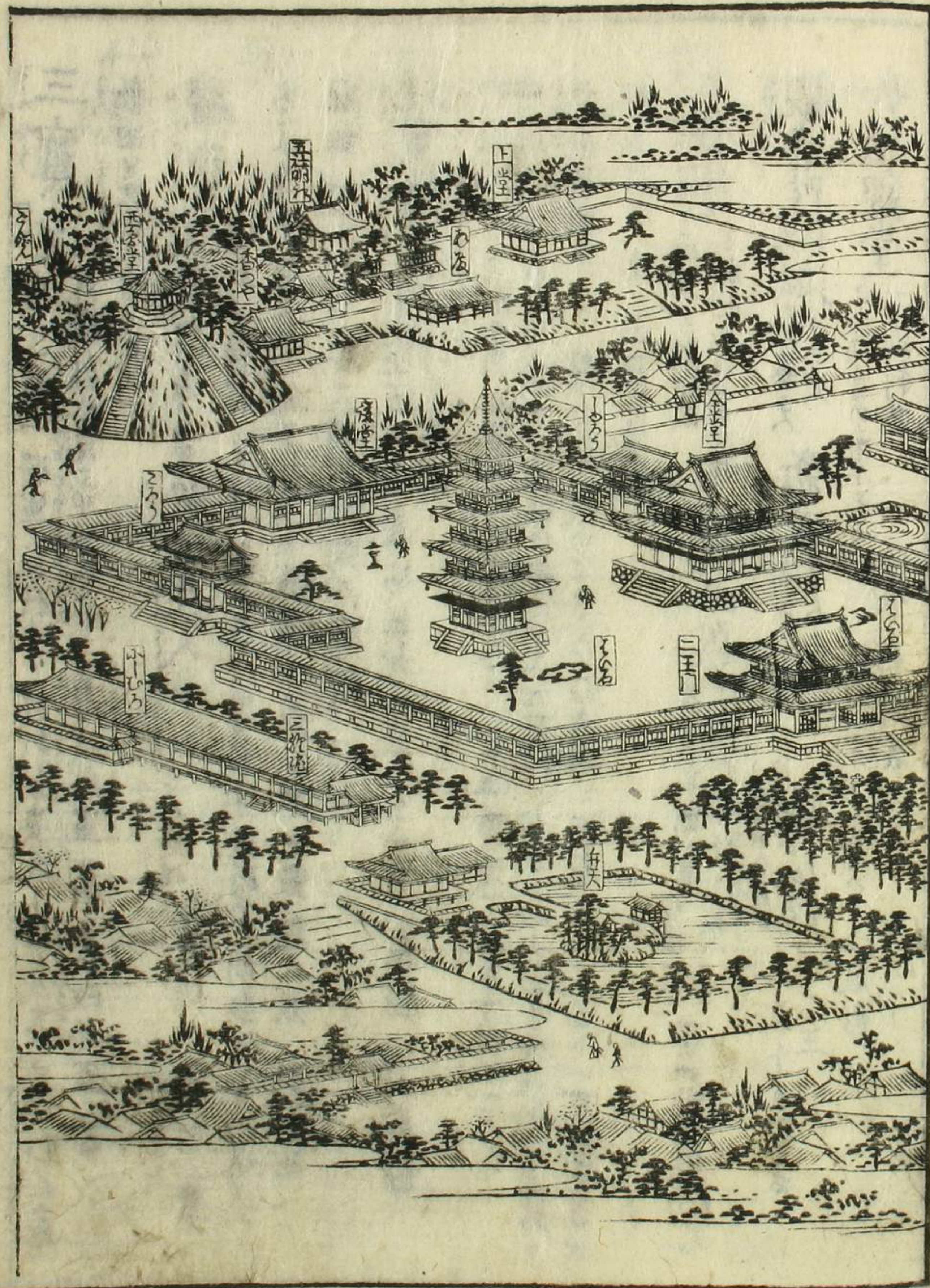
斑鳩里
法華寺
約塚



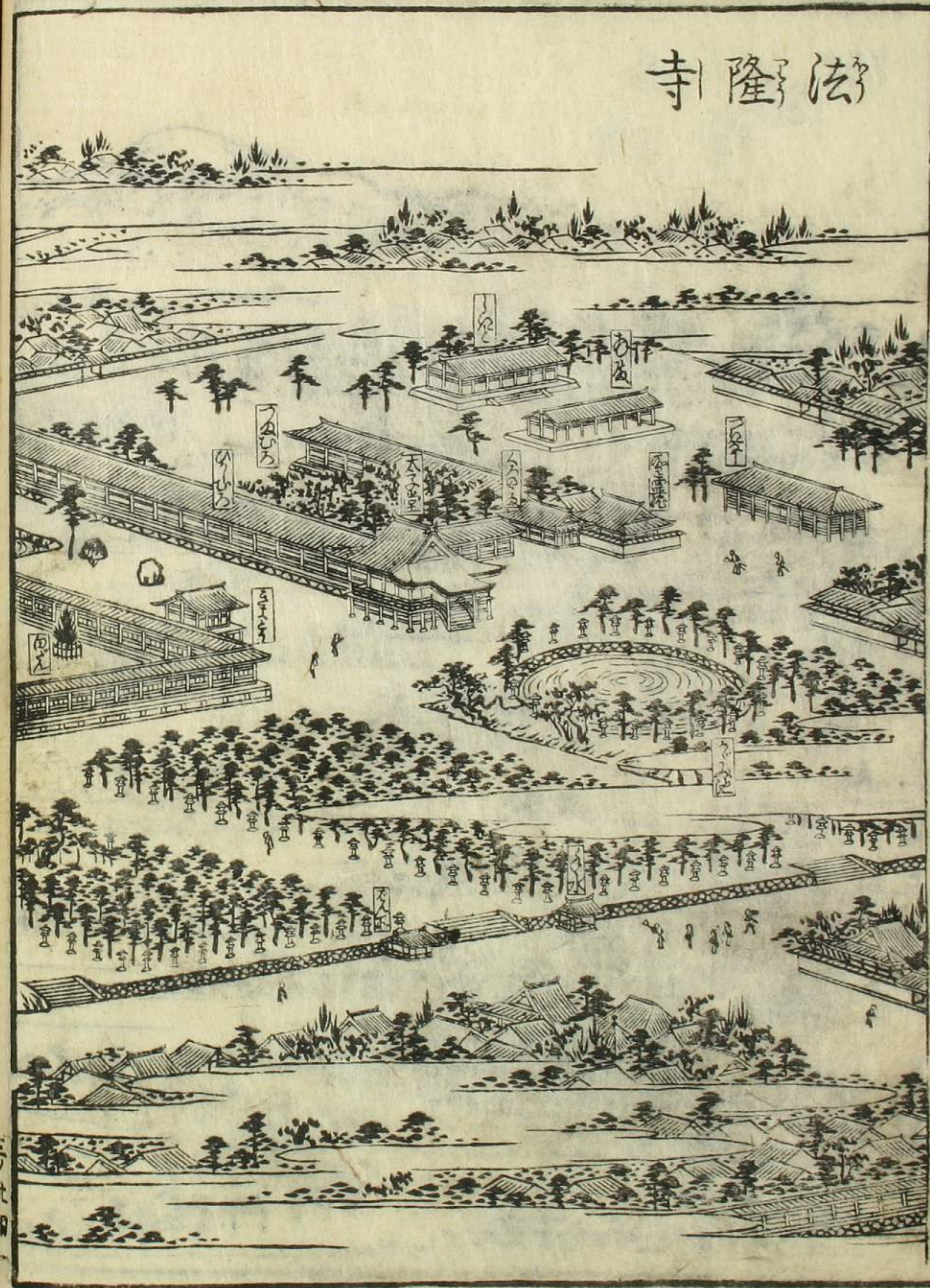


法隆寺の夢殿





法隆寺



三寶院 靈宝塚曰將軍家代々の所社安長一なり太子傳作の事
外願後水尾帝宸眷尊氏將軍書義政將軍書
新田義貞自承狀

禮堂 靈宝塚曰本尊觀者梵天帝釈 鳥仁師也 誕生佛赤旃檀二尊
舍利如意滿 舟大 彩衣蘇曾菩薩面 同將末 南無佛舍利裏
太子所興 華鬘 獅子頭二口 鞞鞞 北鼓一鼓三鼓 駝太鼓 舞樂面

北室律院 天室塚曰本尊の法門之尊太子十六歳影曰二歳影
弘陀千舞佛

中宮寺 大和志曰法隆寺良の隅にあり一名班鳩瓦寺 太子所母也の寺
本尊二臂如意滿の像太子の聖化へ當りふ大寺國の曼陀所あり
莊嚴微妙ありくむらに大珠のくくう内龜甲一百はくつりあり一甲に口字あり
ぬい合せり銘に別記に書けり

正覺寺 本尊大日如來 明王院 本尊不動尊 智澄大師也 太子二歳影 西殿小
不初の王弘法大師也 弘法大師影あり

觀喜院 本尊歡喜大 新堂 本尊茶所也 圓成院 本尊千手觀者
荒神十二天 四天王

如法經堂 大滿宮の南あり 脩南院 本尊太子十六歳影
十羅刹女 各丸天

常樂寺 本尊五智如來 金光寺 西上堂といふ 藏王堂 山の奥あり
大般若毎年修りあり 本尊千手觀者 本尊藏王権現

御廟 太子の所廟にほりてくろひ 王業 左の所廟にほりてくろひ 花院入道

常樂寺 法隆寺村異古市場小一宇のゆめふくろのくろくあり云々

芦塘宮 古今目録抄曰聖徳太子所建之の其一ツ 神屋といふ今日も崩れ

額安寺 額田郡村あり本尊十一面觀音推古帝所上宮太子二味定かぬと

菅田池 菅田村あり 菅田村あり

竹原井 推本村の辺あり 清水墓 秋田村の南あり 苑部墓 西里にあり

朝ふくまの骨のそりしころのむすそり人丸

額安寺 額田郡村あり本尊十一面觀音推古帝所上宮太子二味定かぬと

竹原井 推本村の辺あり 清水墓 秋田村の南あり 苑部墓 西里にあり

朝ふくまの骨のそりしころのむすそり人丸

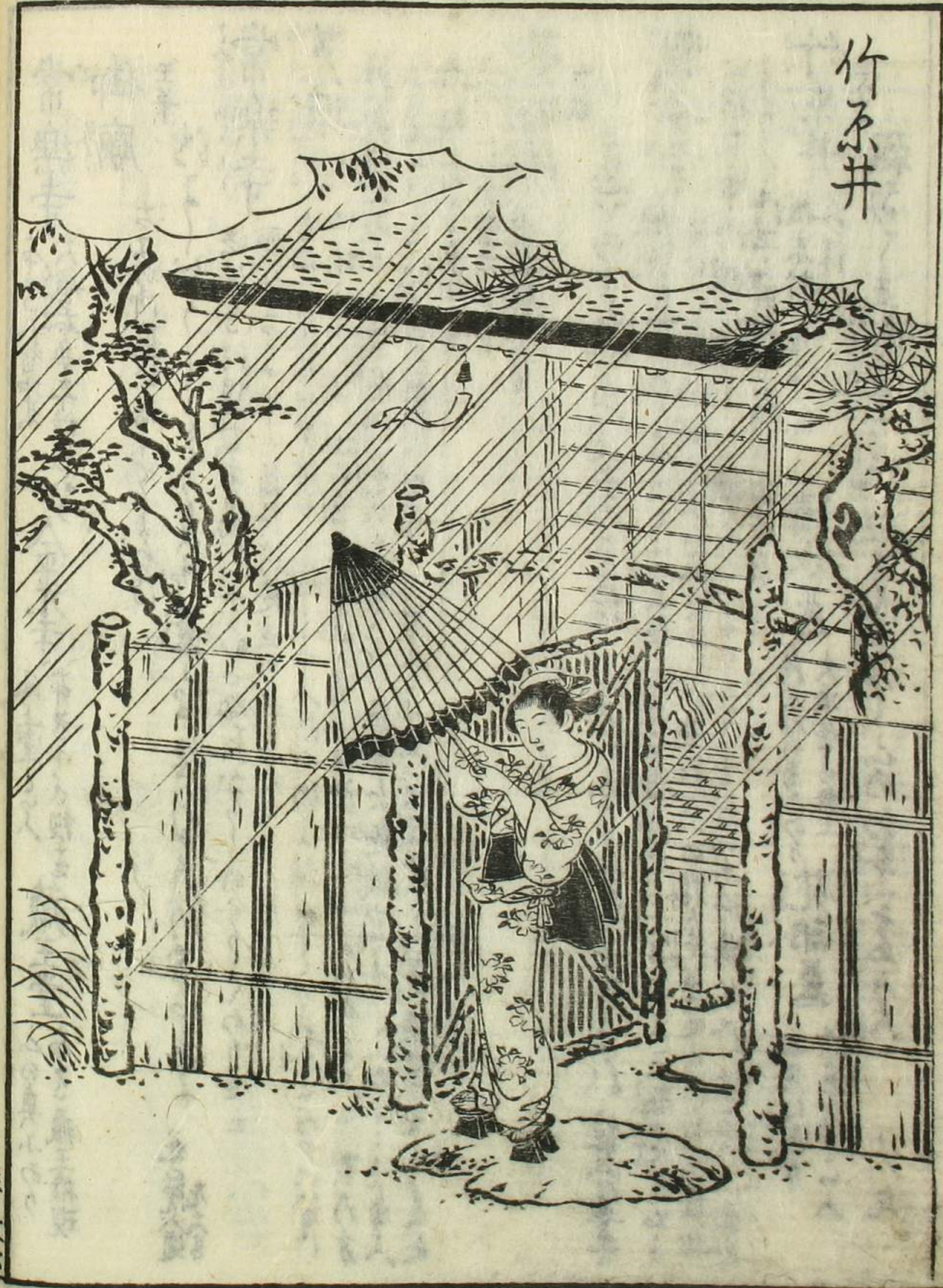
額安寺 額田郡村あり本尊十一面觀音推古帝所上宮太子二味定かぬと

竹原井 推本村の辺あり 清水墓 秋田村の南あり 苑部墓 西里にあり

朝ふくまの骨のそりしころのむすそり人丸



竹原井



龍田新宮 法隆寺より六宅町神あり 新龍田と推古帝十三年二月十五日上宮太子法隆寺を建つるひ

あんの勝地なるひよく巡りあり平群の川より西坂入東のありひ

よせと多ひに龍田明神老翁に化しゆりくく伽藍の勝地なる

よしへられ我又守護神とせんとの神誓あり太子け神告ふりく

法隆寺を建つる龍田明神とむり崇神天皇の清寧に龍田とる

若小海臨し多龍田の系礼の良法施の庇傍二十人法隆寺より

なりるんとありせんより永くはとりくつらむとるりり立所すく

祖をすくすく安にすくけり又法隆寺を班鳩寺の傍に勧修寺

鎮守とる

龜瀬と 新田の事候御越龜瀬御越多聖徳太子の

般名瀬杜 新田の東車坂村

立田川立ると君が名をみいり色の杜いハトと徳思入

え方

新古合

新勅撰

神あいの岩瀬の杜れ時多すくの岡たりのさかひん 田原天皇

夕暮と夏より外なりあいの色の杜りけを涼しめ 正二位聖

神さひのいと濃のとりれ初しれ志のひとを林風を吹 順徳院

よのつらうけても神に知れかよ岩瀬のとりれ秋の下宿 僧正の意

毛無岡 洞安村あり立田大橋より四町をり東の川原にさやうる森あり

古川のろりの色の時多すくのやうけつげさや 大伴俊足

我せさなるの思れ多き若くひ海せうのまるとれ 赤人

つらうけの思れ郭公古く人ふくはほくす 法皇御製

とらふ 燈月寺枕神有備篇

名あり

ぬく風ふとあひやとん神さひのうさのほろのねふ 皇太子御製

三田屋 燈月寺枕神有備 坂津田池 或曰法隆寺の鎮守大は宮の前の池

篇入之

里人といはぬの徳といふ

里人といはぬの徳といふ

立田新宮



續千載

立田川氷の上に

のびてたり

神代もさうぬ

右の志しゆ人

傳つ國冬

立田川

立田川
のびてたり



龍田
本宮

道念法師

おのん

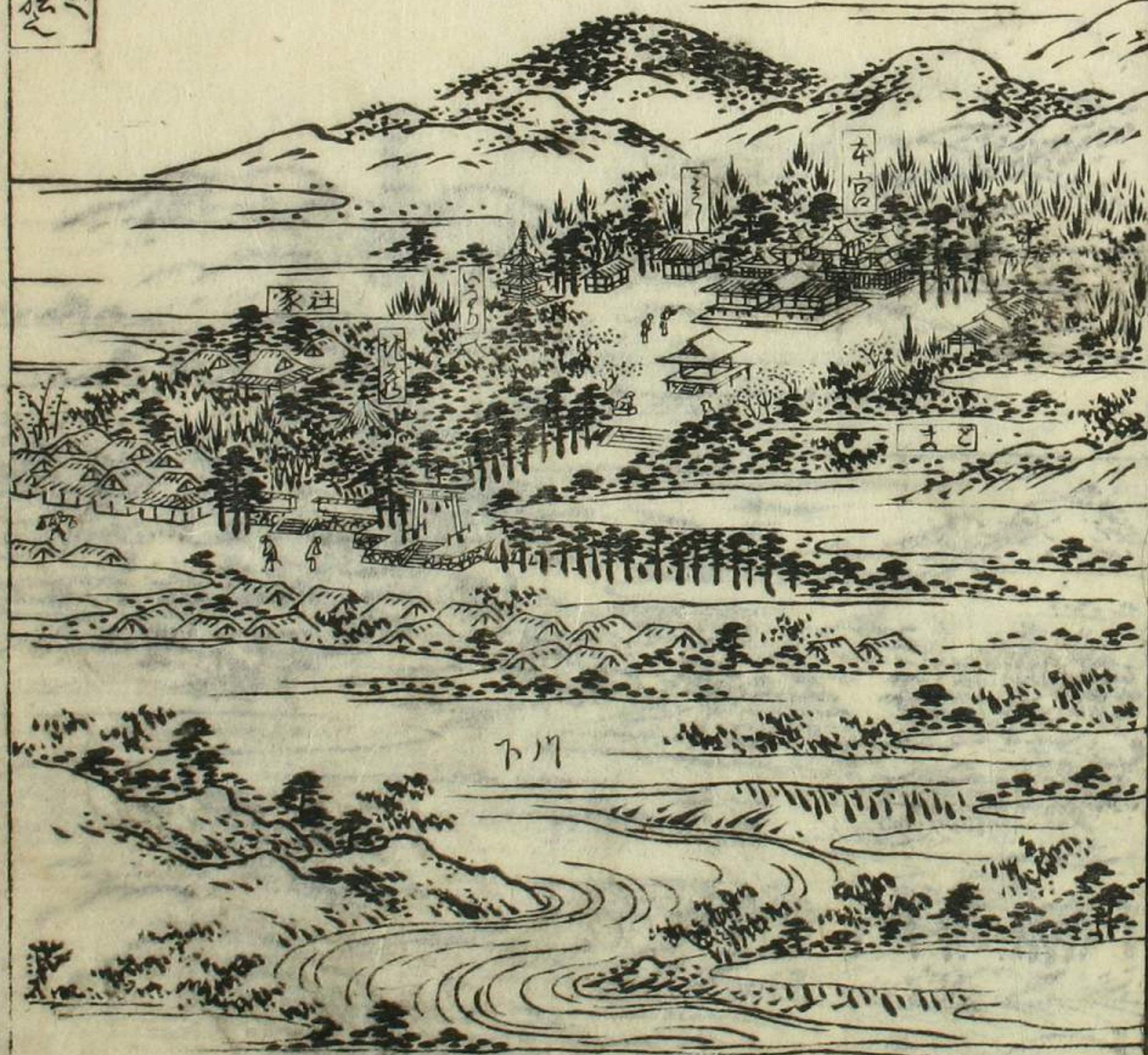
いつまか
花と

八市橋

立田丸の

白雲の
新古今

山崎
つたは



下川

上川

信貴山





龜嶺上

塘雨

麻の郷

然了

新田

夜あじや



神南備
二室岩
お茶川
般名瀬社

後拾遺

あ〜〜

二室のこけ

お茶川

立田の川

新田

徳園法師

龍田川



東

子孫傳代也

さくさく

龍田川

ゆきゆき

あふたふた

業平の長



神南備

熊野抄之大和ふと神南の二室の二不混乱
神南の巻よりの大和ふと

古今

神三月附あしよとゆくとたきとくつら神南の杜 漢人ふか

金系

ちつや神南のひのふ系とふ思ひとくけし梅入とのと 日

詞花

まふみ神南の川にけけとくつらひふたりと吹の花 大武長宮

新古今

おふみ下枝もあつた白ゆりの神南のひのとり 園田守

淡小竹原

澄月斎神南備
夫木 篇入之

おしぬらつら物もの秋に神南のあさゆき乃まおれ下くこ 夜並大臣

神岳神社

神南村あり 猪上神社 信南のふあり

信貴山觀喜院朝護國孫子寺と南山明蓮上人の當初聖徳太子宮軍

兵の率しと守屋大臣の攻めひしに大臣の軍を痛し七官軍

と夜破しと信貴山に逃入りたり太子神南備丹公に作りけしと

山中に石櫓あつたりと守屋大臣の縁あつたりとありふく信

貴みとゆひく白膠本ありと四大王の像は神南備に収めし

文に進みと新小姓約山の藤ありと老武者二騎忽松と味方

に佐と守屋のしりとせしとと修羅とあざむくとも猛将あり

一人のあま大臣とあされ一人の坂大臣とあひとあひしと

軍功と一人とあふしとふしと遂に守屋を討たれしと二層雲に系しと

ゆふかくに扱ひの多門大の石櫓の上ふ方一丈の殿舎を建給ひと

信貴山の昆虫大足あり其時皇太子けしとに向てせ給ひと信

貴むしとと宮ひしと信貴山とありしと

米尾

大和守社記曰昆虫門堂より十五六町かと林森に信貴の畑ありと

古城址

大和守社記曰山の頂に古城の跡ありといふと古川春藏といひと

自綴

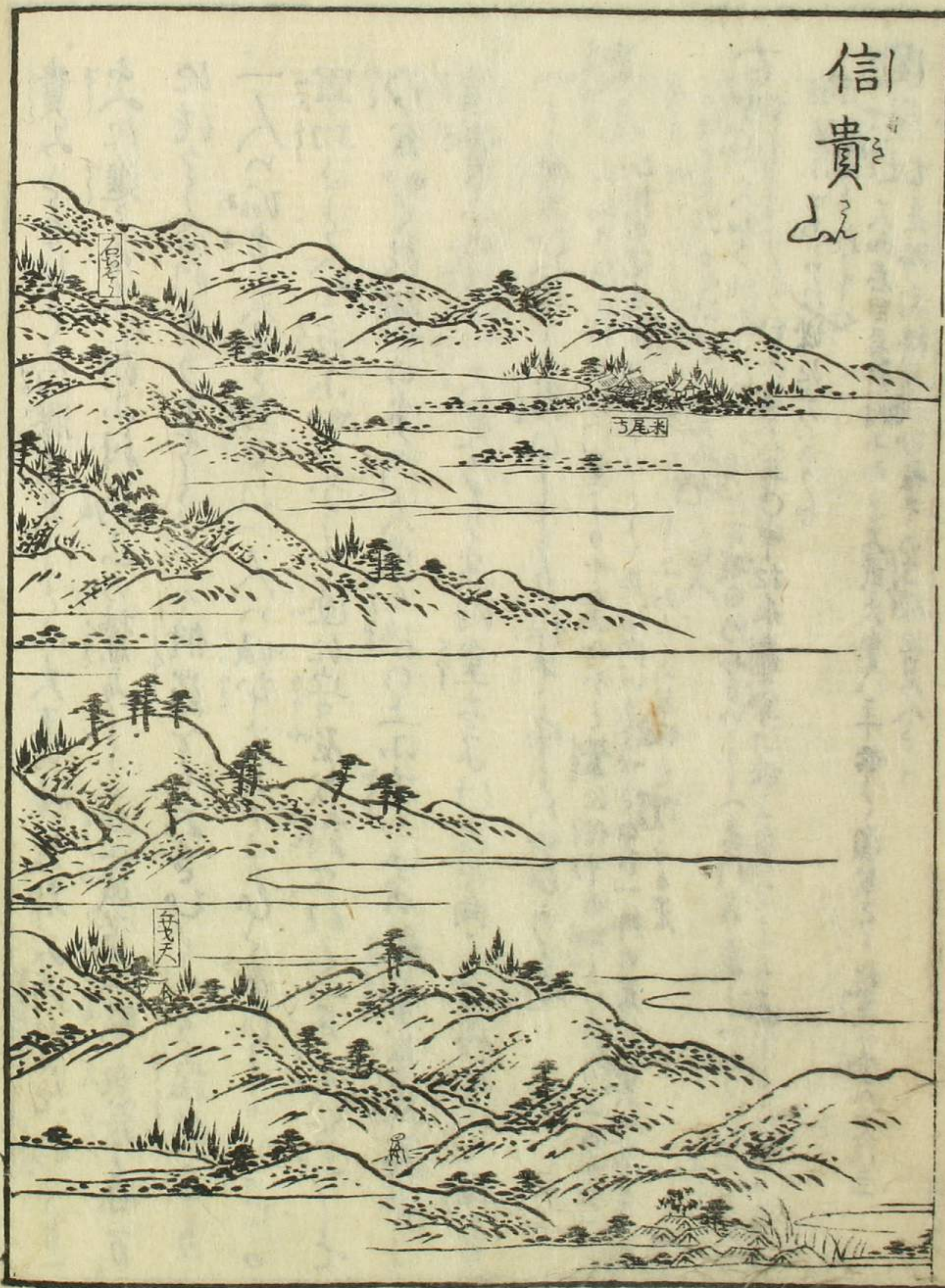
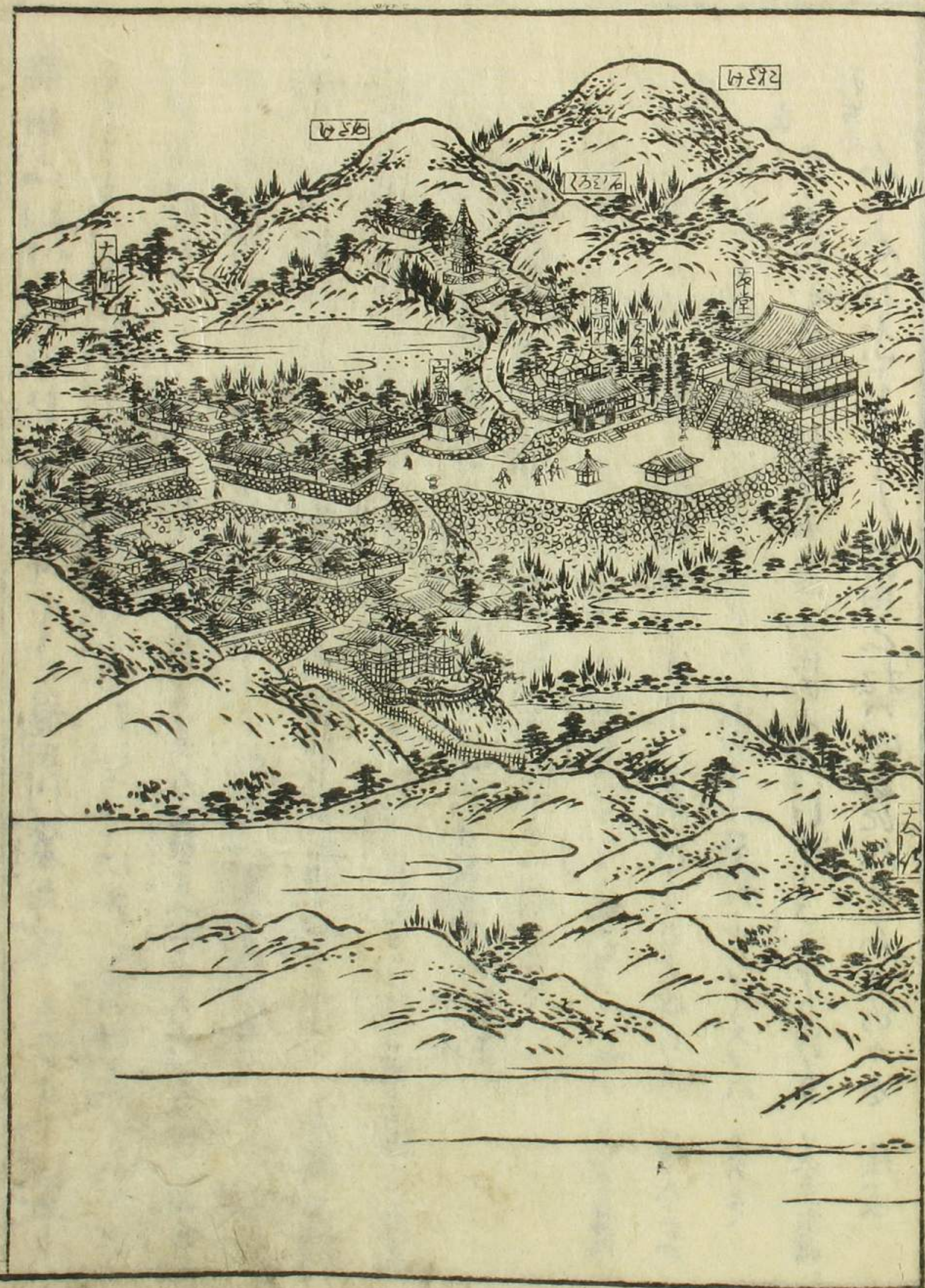
大和守社記曰山の頂に古城の跡ありといふと古川春藏といひと

園屋址

大和守社記曰山の頂に古城の跡ありといふと古川春藏といひと

園屋址

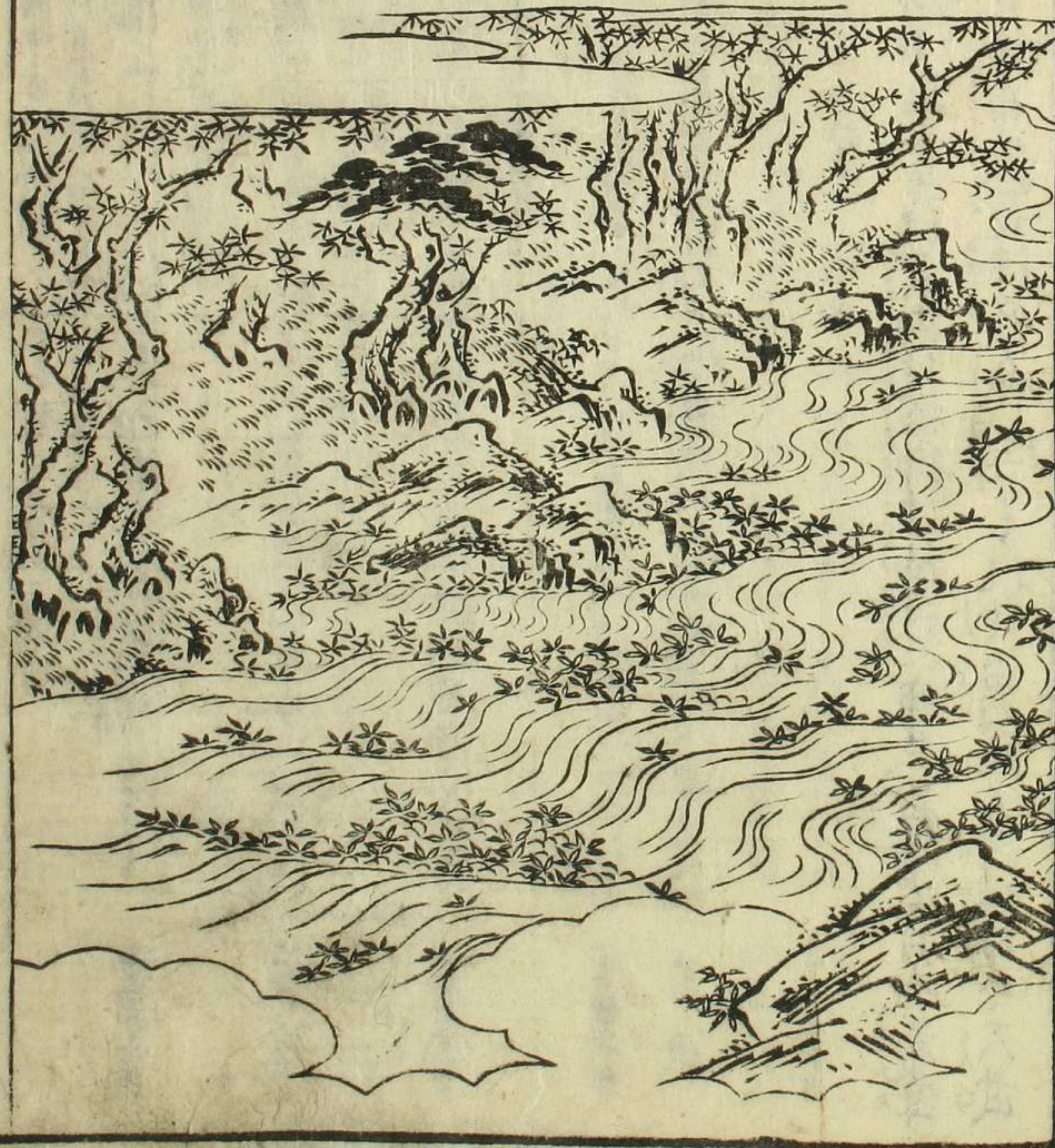
大和守社記曰山の頂に古城の跡ありといふと古川春藏といひと



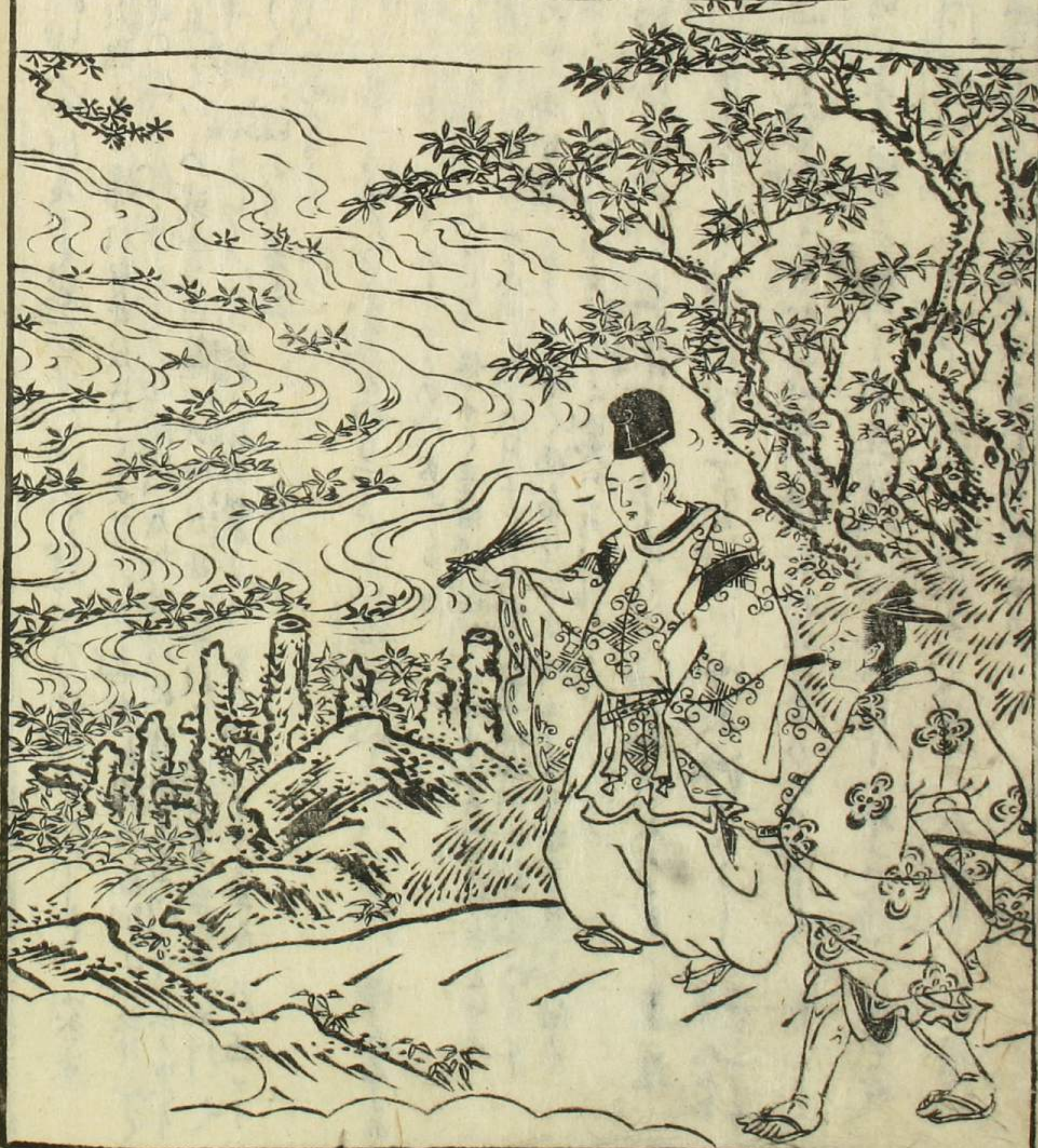
信貴
山

三ノ田

冬の川
 大根系
 流内
 新田川
 宇鹿



流内
 三田北
 流内
 流内
 流内
 秋の
 川波
 永重前田氏



大和川 大和國中の川 藤原の南葛下郡の

大和川 北より流るる小流に末は内ふた入

大和川 橋みどれく流るる初瀬のふん流

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

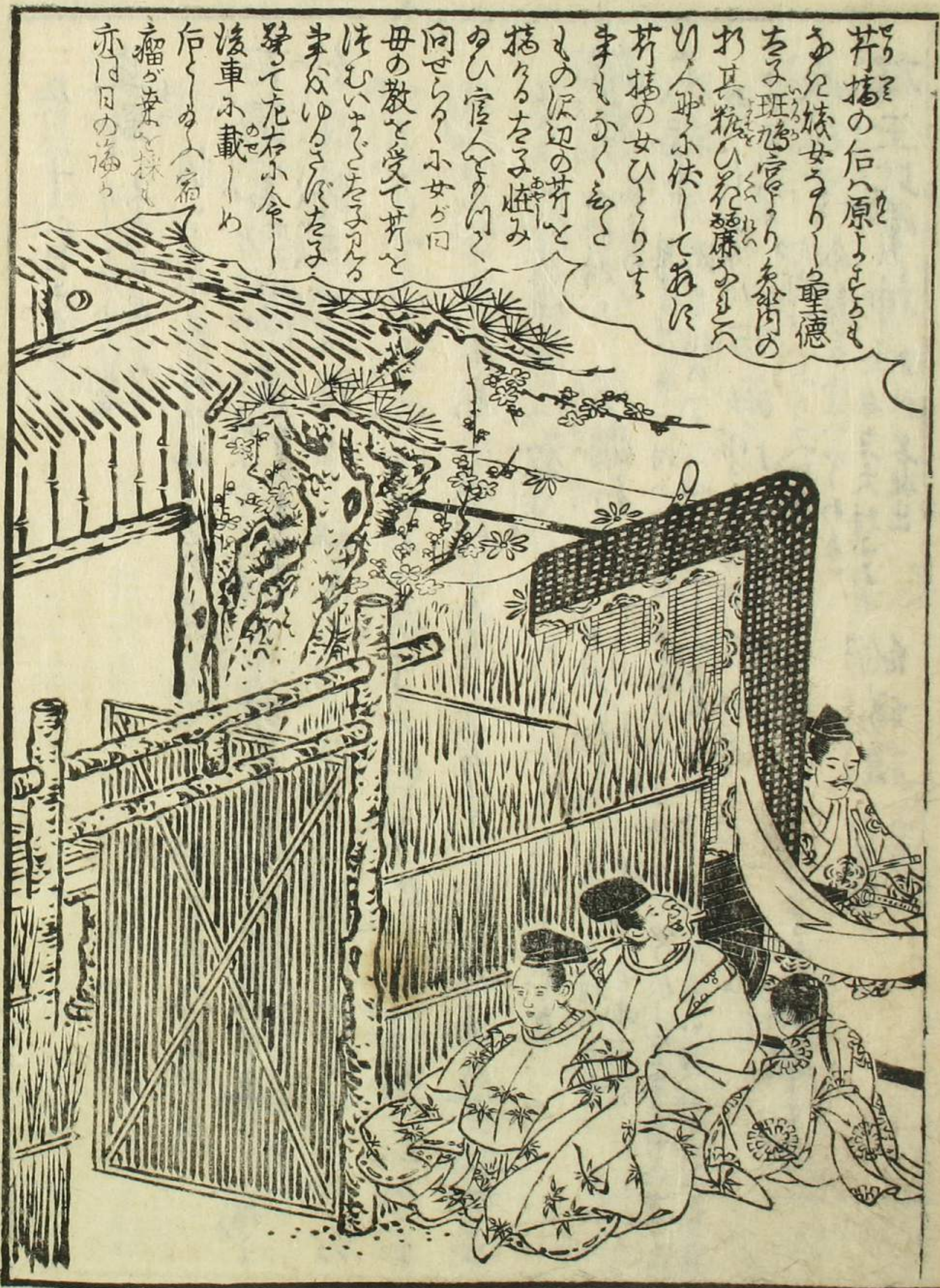
大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり

大和川 立所の西に小流あり



芥搦の右原よととも
 むねは女より一重徳
 ち子班九官より未雨の
 お其様ひ花簾あまの
 り人母ふ伏しておは
 芥搦の女ひとり
 まもふくも
 もの浜辺の芥と
 搦たる右子姪み
 少ひ官人より向
 向せらるゝ小女が同
 母の教と受て芥と
 はむいさゝとまひん
 まふゆるさばたま
 髪て左右小令
 後車小載しり
 后くゝ人宿
 瘤が素々採り
 亦は日のあかり

廣瀬川 大和国初瀬川百濟川葛城川も見門の四水合し 廣瀬川と

入月雨小江ささりく廣瀬川名ふそそをれあのお波 廣瀬川

澤田川 廣瀬川と川さかん

沢田川 廣瀬川と川さかん

廣瀬社 廣瀬川と川さかん

伊勢神水徳神 伊勢神水徳神

神々 神々

日本紀 日本紀

苗穂 苗穂

牧野墓 牧野墓

立岡墓 立岡墓

葦田原 葦田池 日見橋 船戸渡 葦田原 葦田池 日見橋 船戸渡

片岡神社 片岡神社

久土寺 久土寺

孝霊天皇陵 孝霊天皇陵

片岡山達磨寺 片岡山達磨寺

かまき かまき

いさ いさ

扱あつか日ひ飢う人ひと死しりりをを子こ懸けんししとと終はひひくくそのその不ふ埋まいをを葬まうささとと白はひひ
 其その後のち日ひ教を分わけてのの屍しかばね骨をかんんんすすわわ終はひひのの衣え履らをを棺ひつたんの上の上ににととみみくく
 骸しかばね骨をととかかくくととりりけけるる其そのささぬぬかかととりりくくととみみくくははひひのの如ごとくく服ふく終はひひ
 々々れれしし時ときの人ひといいととああややしし聖せいのの聖せいのの志しををままじじるるののああんん実じつををままじじるるかかとといいひひ
 ああつつりりととるる紀き別べつ飢う人ひとをを墓むににつつきき終はひひ連れん磨ま墳ぼんととりり書しよ其その墳ぼんのの人ひとのの
 塔たつのの勝しょう月げつ上じやう人にんのの起おこ立たみみてて聖せい徳とく太たい子しとと連れん磨ま大だい師しのの遺い像ざうかかとといいまますす
 くりくり等と置お置きのの解げ脱だつ上じやう人にんのの同どう時じ代だいのの人ひと撰せん集しゆ抄しやう又またのの説せつ小せう解げ脱だつ上じやう人にんのの
 墳ぼん小せう二に重じゆう墳ぼんかかとといいくく草そう室しつかかののはは人にん達だつ磨ま寺じとと号ごうせせられられれとといいひひまますす
 堂だうのの後のち小せう碑ひ銘めいありあり南なん禅ぜん寺じ惟い肖せう和わ尚じやうののままじじとといいひひまますす
海番所へは建つた像の列は藩田中若法院小ありく近ひ大明三年彼地の有住水よ
 放はう光くわう廢えい寺じ王わう寺じ村むら小せう氷ひ室しつ址ぢ王わう寺じ村むらのの中ちゆう二に木き廢えい寺じ畠はたけ村むら小せうありあり
 行ぎやう岡おのとと小せうありあり行ぎやう岡おの北きた朝あさ原はら小せうありありああととくくいいととああままははままをを行ぎやう岡おののの系けいととくく人ひとをを焼やけけぬぬはは人ひと九く
 拾しゆきき

千載

まるの海初よりそのまを流縁あり
 〇〇岡の朝のまを流縁あり
 〇〇岡の朝のまを流縁あり

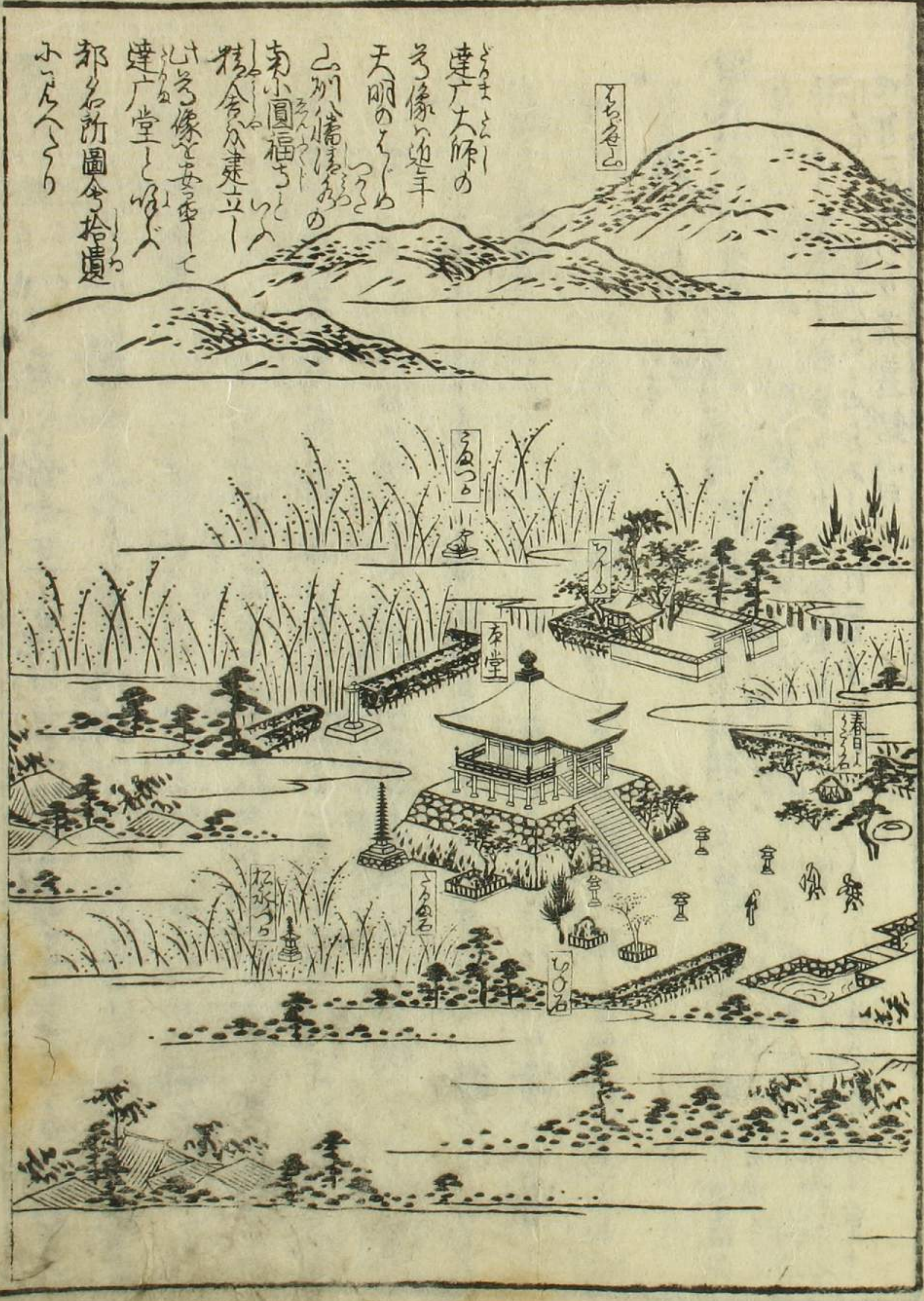
小松杜 行岡莊小あり
 武烈 大皇陵 平井村小あり字ハ塚ト
 顯宗 大皇陵 平井村小あり字ハ石上
 大幡神社 畠ト上小あり今ハ幡ト称ス
 志都美神社 上里村小あり
 龍峯寺 守村小あり其の所の皇太子中ハ終ト化シ皇太子ト
 福應寺 狐井村 志心院源信傍 都賀の地ト云フ
 大双雷神社 守村小あり其の所の皇太子中ハ終ト化シ皇太子ト
 萬歳山 二上山の南 二上山の墓 大津皇子の墓
 葛本二上神社二座 二上の上頂小あり今権現ト称ス

建磨寺

秋さびし
同善石上
鳩ふさふ
山壁



どろまといし
建大師の
号像の通年
天明のころ
乙卯八幡清の
南小圓福の
精舎の建立
け号像を安んじて
建大師の号
都名所圖會拾遺
小いんごり



當麻寺

二上嶽の下九子

二上二万法藏院禪林寺と號と本堂と

觀世音より曼陀羅堂といふ勅額あり是も新曼陀羅あり又

本堂の後の寶藏より中將雅直の曼陀羅維と収めりそれ當寺と

用明帝才口の皇子磨古親王に神建立之其初を推古帝に神宇

二十年河内國山田郷小造をあつて方法藏院と號と今の當麻の地

へむく役行者の家地と大武帝白鳳二年磨古親王の神爰の若く依

て今の地に移りて磨古大武帝役行者の地と云ふの依りて行者と

勅をかく伽藍と云ふは十年二月堂舎とてかく成就はかく小

於て禪林寺と改むば其後大平寶字年中右大臣豐成公の女中將雅

けり入るに尼と成一念小佛道に赴くことと真の鉢陀佛とたはばとんを

寺に出家すとて誓ひて一人あり一人の比丘尼あり語て曰我汝を

小鉢陀如來にあまうりん百駄の蓮莖と集むべし中將尼帝(奏)し

より井戸穿ちてわらわ濯ぐ小水爰と深とり又ひりりり化女

來り化尼小向へ糸の深とりて若く曰完成とてり化女を深と

の西北の角小いりてわらわ織初更より初て更も成終は其幅一丈

八尺藁三把とてわら油二升と浸し燭とてわら中將尼に授

く深土の瘻相悉く使ひ中將尼大もほひ節とて竹と求く軸と

かひぬ小化女忽然とてわら久に化尼のて蜀の偈と授て曰往昔

迦葉說法所 今兼法起作佛事 響響西方故我來 一入是場永離苦

中將尼問て曰若知識いばくよりありありを又その女の推とてり人

若く宣へ我とてわら方の教とてその女の觀者大とて言かりりて

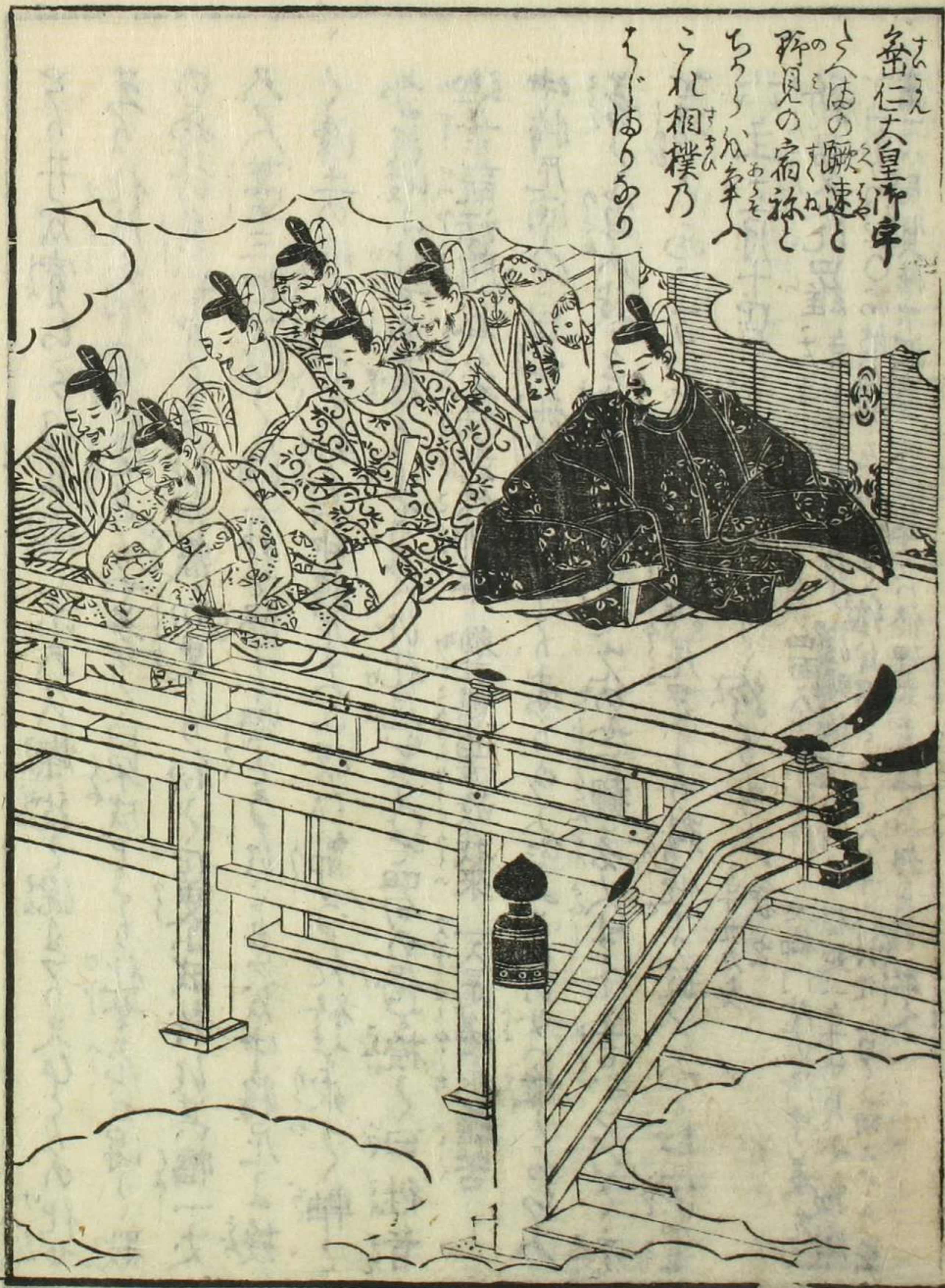
と凌く西の方小を去り中將尼是より精修すはくわむ室龜

六年二月十四日安ん念佛とて終りあり 年廿九女

新曼陀羅 大平寶字七年より四百八十年と終り土御内院の所宇兼元二

年小院奉りて終り後醍醐院の所宇保延二年十月小報

畫工の良賀法下源慶は眼銘文の修理大夫藤原長初終



密仁大皇帝序
 とははの蹴速と
 野見の宿祿と
 ちろくかき入
 これ相撲乃
 ろはりあり

講堂

本寺の西に於て法華堂あり又側小茶師堂あり

右大將頼朝公

徳谷小次布直家と名り坊舎眞言宗十六坊法華堂あり

茶室

和州社記曰中將始當麻の實惟法師成師とす

小堂あり

尼寺あり中將始當麻の實惟法師成師とす

南無阿彌陀佛

のまこととて考あややたれと二上の心 中將

二上のまこととて考あややたれと二上の心 中將

尼の心

或書曰中將始當麻の實惟法師成師とす

弘法大師の御影あり

又曰中將始當麻の實惟法師成師とす

初め押勝が橋本と名り

押勝が婿をとりて

奥院

と性生すとて人源空上人の遺像上人みづく

一像あり洛東智恩院にて年曆と記あり

おとのあそび悩まのびくと

乃る是れぬけと血の流るる

麻子の曼陀羅へかゝる

徳沈小して世の青蓮

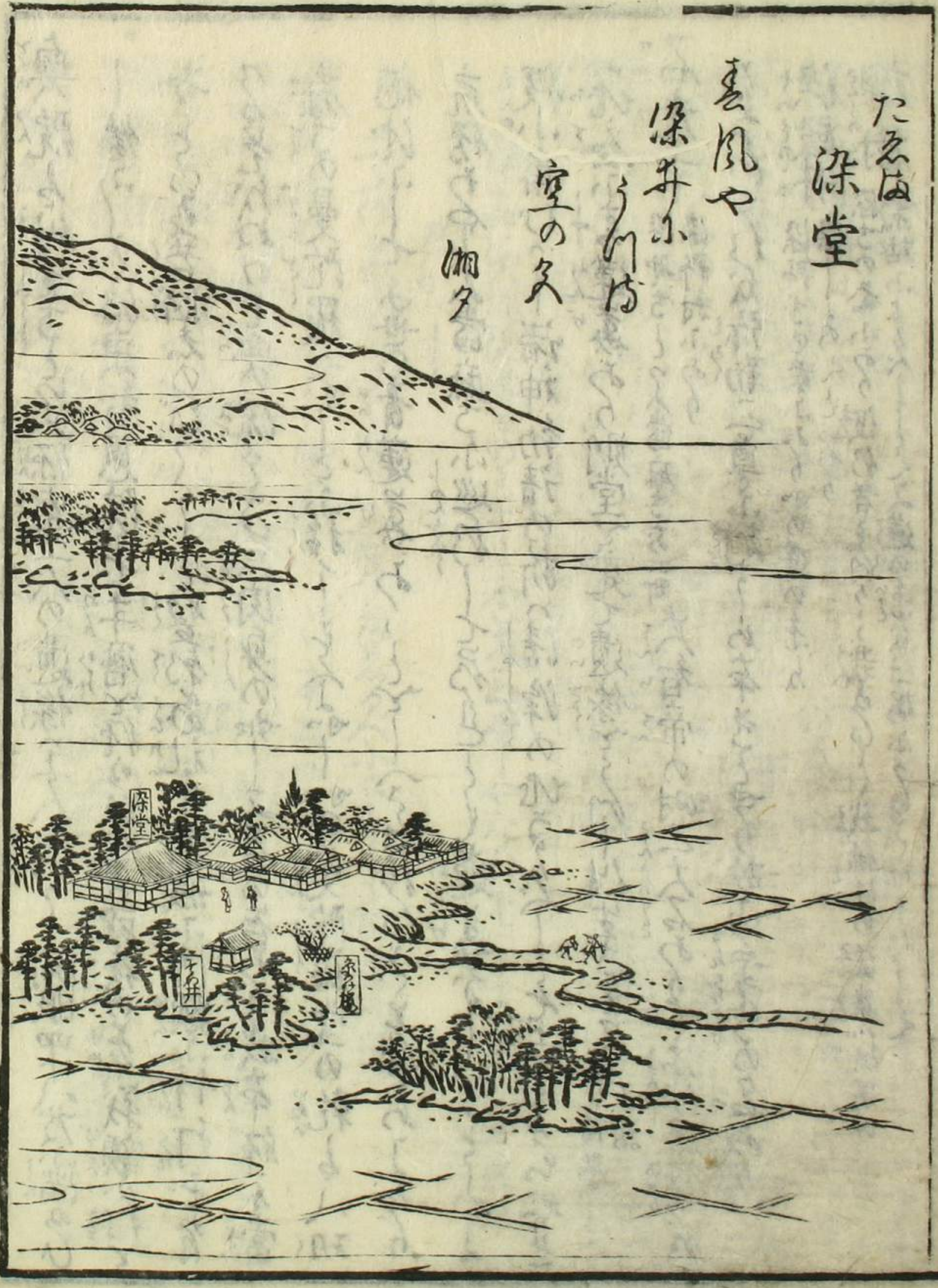
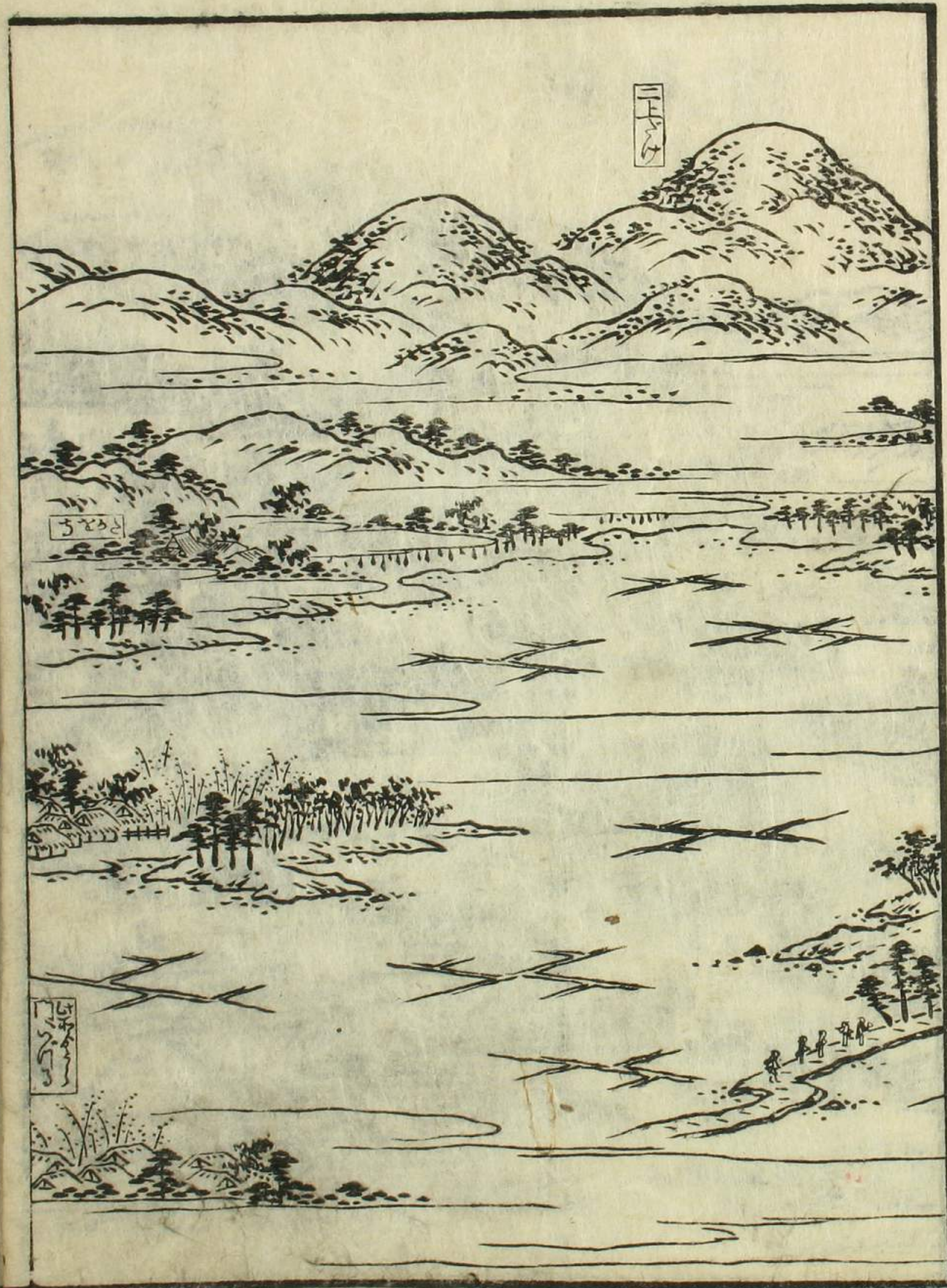
庇傍わやみ當麻小巡り

役小角じり諸神勅清の祈

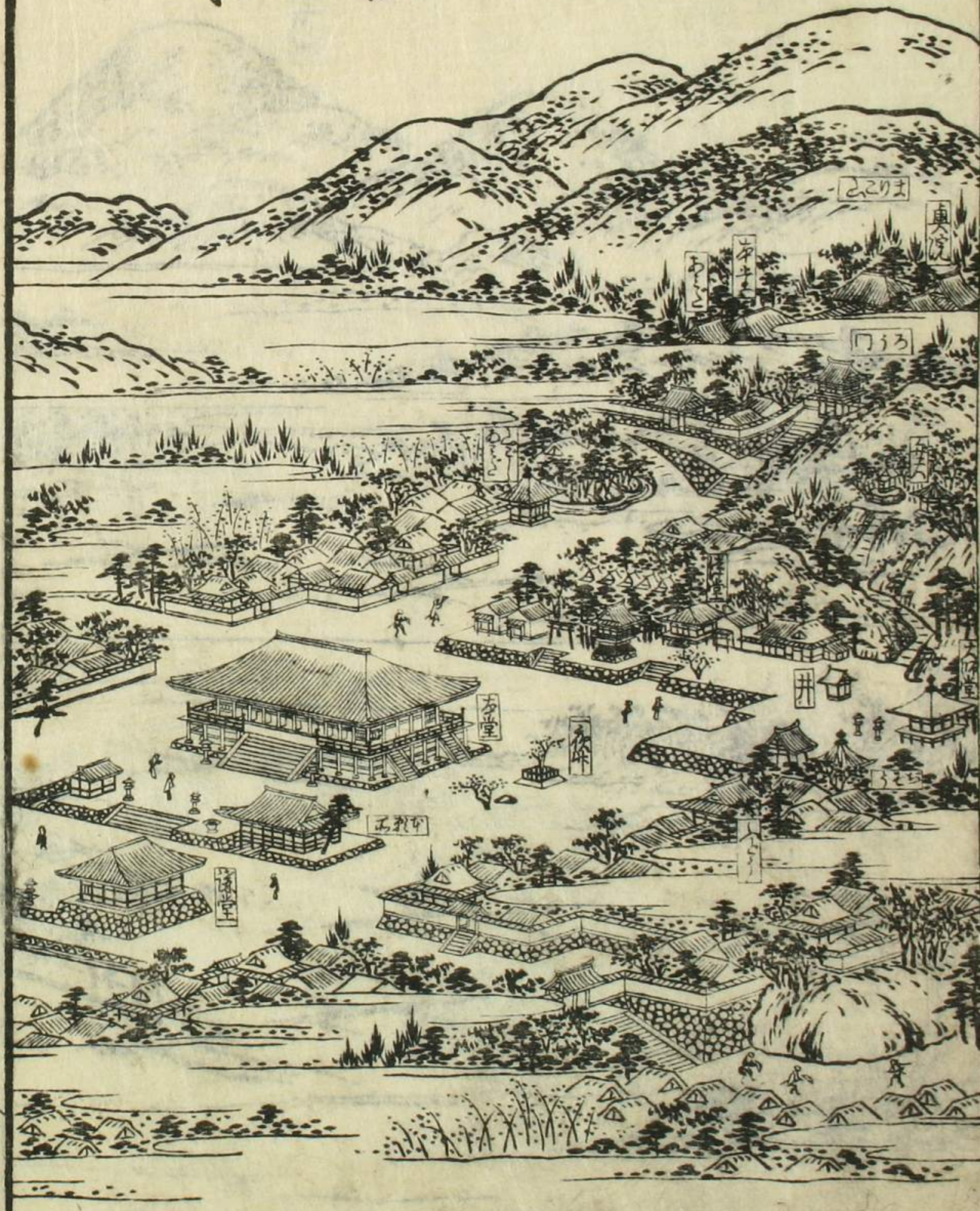
石光寺 深井村あり

深殿井 深井村あり

櫻樹 深井村あり



當麻寺



泊船集

二上乙尚麻子小

後々々々々の松か
 入るふれふりせも
 へらろくく人い半
 てもゆきとくもい
 ぬらんや色北情こ
 けもも仏塚ふひくれ
 芥介の屍かすんぬ
 くとくとんぞあきく
 くのく

僧形顔

後死之信

法の堂

とまか



高雄寺 新在家村あり二上と台
横佩墓 横佩右大臣豊成公と武智
の長男淡海公の嫡孫正三位右大臣藤原朝臣豊成卿と号し横佩と号す

正行寺 有井村あり遠如上人の真然あり寶如上人の讚小曰明應二年九月十九日寫と和列葛下郡平田莊有井邑圓淨と興人寺記曰文明年中當麻呂希為繼古城の地とて遠如上人小施與

多々虫玉神社 二倉堂村あり龍王と稱と
浮孔宮 二倉堂村あり
安寧天皇の皇居之

調田神社 足田村あり春日と稱と
長尾神社 長尾村あり神名帳
二代実録出

金村神社 大倉村あり神名帳
宇佐神社 大倉村あり
二葉と八幡宮と号す

影現寺 本寺阿弥陀佛 本寺堂の傍あり
歌冢 本寺人磨の墓あり傍に碑あり
和列村本村人麻呂小石碑陰

商山雲深不可攀 不可陟 桃源路迷不可遊 不可到 然非天地之外 是以皓叟悠然 以隱黃髮 怡然自樂 彼人而遺此世 此世而遺彼人 故車馬跡絕 爲別天地者也 偶有如張子房 陶元亮者 而得向商山 得沂桃源也 舉世皆不知之 豈子房元亮獨知之哉 出塵之操 與潔之情 同氣相求 同聲相應也 則商山之雲 桃源之路 豈必背人哉 人背之也 大和國漆郡初瀬石上之邊 柳本寺有柳本大夫人麻呂之墳 世移時替 基趾湮

滅曾聞藤清輔尋其旧蹟刻小碑詠歌而去其後鳴長明尋之不得矣 問歌墳在何處而始知之人麻呂者歌林之仙獨步絕倫者也 清輔長明者千歲之同士也 試心所求豈不至乎哉 猶子房元亮於商山 桃源也 和列郡山城主日列太守源君信之一日語余曰 其領內葛下郡柳本村有人麻呂之墳 土人傳稱人麻呂生干茲 故後人建墓也 蓋其自歌墳所移葬乎 今已荒廢 僅存旧礎 是以修其寺院 建小石欲垂不朽也 請記其事 太守初鎮播列明石城 浦畔以有人麻呂祠堂 建碑請詞於我先人 弘文學士詳記履歷 今又修其墳墓 可謂能知人麻呂者也 自然之好 因不亦奇乎 嚮雖有清輔長明 然不遇太守 起廢之舉 則誰向其跡 尋其風哉 明石不遠 朝霧接影 人麻呂之霄息 干此遊干彼 長濟千歲之美也 亦是太守追遠之一端 乎其於事業 則民德歸厚者 可以期焉 乃誌于碑 陰為後證

整宇林 整直民甫識

天和元年辛酉十月中旬

笛吹山 忍海郡の西界小あり巨樹鬱然 一風雨の時

栗栖小形 柳本村あり
久渡 栗栖村あり

葛城川 北十三村あり
葛下郡あり
葛城川 柳本村あり
葛城川 柳本村あり

爲志神社 柳本村あり
神名帳出
火雷神社 柳本村あり
神名帳出

葛城川 柳本村あり
葛城川 柳本村あり
葛城川 柳本村あり



大和名所圖會卷之三終

角刺宮旧址忍海村人皇廿二代清寧天皇五年崩御後ひく皇太子

億計王清光弘計王清和清和天皇御代に於ては御孫の御孫は御孫

あはれ日経より清和天皇御代に於ては御孫の御孫は御孫

清寧天皇二年七月角刺宮小して與まるとりて作りし人皇孫の御孫

一とひ女の道が走りぬるふふの異なることありんその後交合の道

あはれ海尊より清和天皇御代に於ては御孫の御孫は御孫

遊岡吹竹村吹竹梅室村清水今城村あり

吹竹の社の神と云ふことありて吹竹の岡なり

古くは吹竹の堤は遠くともありて吹竹の岡なり

朱櫻吹竹村吹竹梅室村清水今城村あり

吹竹の社の神と云ふことありて吹竹の岡なり

